

参加選手
体験談集

ねんりんピックで輝く シニアの星



©ねんりんピック岐阜2025 実行委員会



第37回全国健康福祉祭ぎふ大会

ねんりんピック岐阜2025

清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪
2025年10月18日(土)~21日(火)

はじめに

ねんりんピック岐阜 2025 参加選手体験談集の刊行にあたって

第37回全国健康福祉祭ぎふ大会は、「清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪」をテーマに、多くの関係団体や開催地のボランティアの方々のご支援・ご協力のもと、令和7年10月18日から21日までの4日間にわたって開催されました。

本大会では、ねんりんピック交流大会の種目として初開催となったパドルテニスを含む31種目のスポーツ・文化の交流大会が、県内全24市町でそれぞれ開催されたほか、岐阜県独自の「ふれあいレク大会」としてポッチャなどのパラスポーツも含めた25種目の競技も開催されました。また、健康・福祉・生きがいに関する多彩なイベントも実施され、大会開催期間を通じ、延べ約60万人の方々にご参加をいただき、盛大な大会となりました。

大会では、全国各地から集った多くの選手が日々の練習成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々、他チームの選手との交流や観光などを通じて、県内の魅力を十分に満喫されました。

このたび、大会に参加された選手のエピソードや感想、大会当日の様子などをお伝えし、ねんりんピックの楽しさ、大会にかける選手の情熱をより多くの方々に知っていただくため、体験談集を作成いたしました。

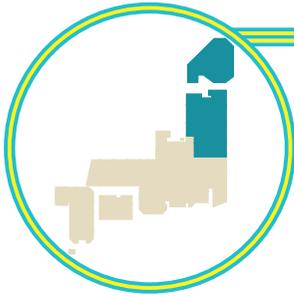
体験談から伝わってくる選手の競技にかける熱い思い、大会に向けた日々の懸命な練習、仲間との絆や周囲への感謝の心、試合・観光をともに楽しむ姿に、生きがい・健康づくりの大切さや心の豊かさを感じていただくとともに、ひとりでも多くの方にご覧いただき、ねんりんピックで輝くシニアの素晴らしさに触れていただけたら幸いです。

なお、体験談の募集にあたっては、各都道府県・政令指定都市の選手派遣団体の皆様に多大なるご協力をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。

おわりに、ねんりんピック岐阜2025に参加された選手の皆様、開催に尽力された岐阜県関係各位、交流大会等の開催市町村、各競技団体やボランティアの皆様、心温まるおもてなしをしてくださった県民の皆様、協賛いただきました企業・団体に心から感謝申し上げます、刊行の言葉といたします。

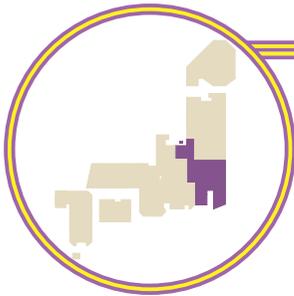
2026年3月

一般財団法人 長寿社会開発センター



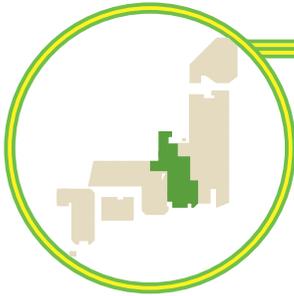
北海道・東北

岩手県	亀澤榮三郎さん	ゴルフ	6
	広野昭三さん	卓球	7
秋田県	藤原甚英さん	健康マージャン	8
福島県	佐藤 彰さん	ソフトボール	9
	武田秀作さん	ソフトテニス	10
札幌市	吉野さおりさん	ソフトテニス	11



関東・甲信越

群馬県	武井 績さん	健康マージャン	14
	代田美知子さん	グラウンド・ゴルフ	15
埼玉県	赤松博嗣さん	サッカー	16
千葉県	今泉由紀子さん	ゴルフ	17
	鈴木助市さん	グラウンド・ゴルフ	18
東京都	山本喜清さん	サッカー	19
	奥野典子さん	インディアカ	20
神奈川県	武井清美さん	マラソン	21
	大塚三郎さん	将棋	22
山梨県	永田 務さん	水泳	23
	吉岡 文昭さん	ウォークラリー	24
長野県	三井 学さん	ソフトバレーボール	25
	渡邊和枝さん	水泳	26
横浜市	相澤 光さん	グラウンド・ゴルフ	27
	高梨輝夫さん	弓道	28
川崎市	長沼由紀子さん	テニス	29
	高山和美さん	太極拳	30



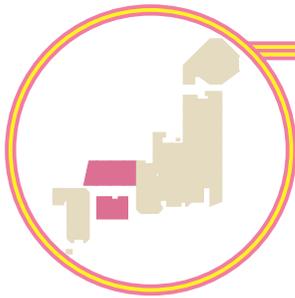
東海・北陸

岐阜県	竹内正康さん	ソフトバレーボール	32
静岡県	大石ますみさん	マラソン	33
愛知県	岸 勲さん	ソフトテニス	34
	堀 淳子さん	インディアカ	35
三重県	石原保行さん	パドルテニス	36
	下村真也さん	ソフトボール	37



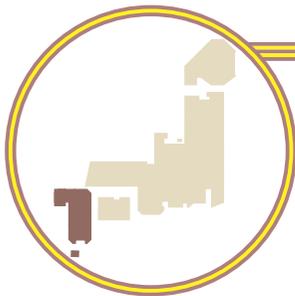
近畿

滋賀県	松井伸二さん	ソフトバレーボール	40
	早川浩一さん	ディスクゴルフ	41
京都府	宮本 充さん	パドルテニス	42
	上月俊行さん	健康マージャン	43
大阪府	木下修一さん	剣道	44
兵庫県	田中秀明さん	ゴルフ	45
	岩崎真由美さん	剣道	46
奈良県	池原清文さん	ソフトボール	47
京都市	中西 昇さん	グラウンド・ゴルフ	48
	谷口主嘉さん	ダンススポーツ	49
大阪市	東 富和さん	サッカー	50
堺市	渡利立美さん	水泳	51



中国・四国

鳥取県	山田 丞二さん	ダンススポーツ	54
島根県	前田 克美さん	ソフトバレーボール	55
	峰谷 茂さん	将棋	56
山口県	藤 清隆さん	サッカー	57
	吉田 眞純さん	水泳	58
徳島県	松田 政直さん	ソフトボール	59
	江淵 豊幸さん	グラウンド・ゴルフ	60
香川県	大西 小波さん	バウンドテニス	61
	名瀬 文雄さん	ソフトバレーボール	62
高知県	弘瀬 佳代さん	水泳	63
	明神 良房さん	マラソン	64
広島市	柿本 雅之さん	将棋	65



九州・沖縄

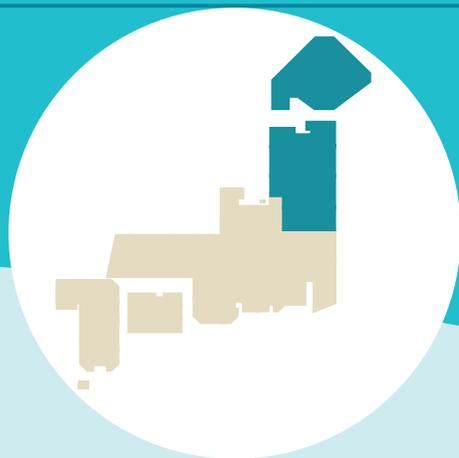
長崎県	角田 瑞枝さん	グラウンド・ゴルフ	68
熊本県	竹下 精一さん	ペタンク	69
	中野 順子さん	マラソン	70
大分県	堀 正和さん	テニス	71
	石井とも子さん	ペタンク	72
宮崎県	黒木 豊さん	ゲートボール	73

Information

Information	75
-------------	----

※本文中に記載している年齢は大会ご参加時のものです。

北海道・東北



p.6 岩手県

亀澤 榮三郎さん
ゴルフ



p.7 岩手県

広野 昭三さん
卓球



p.8 秋田県

藤原 甚英さん
健康マーじゃん



p.9 福島県

佐藤 彰さん
ソフトボール



p.10 福島県

武田 秀作さん
ソフトテニス



p.11 札幌市

吉野 さおりさん
ソフトテニス





ゴルフ

岩手わんこチーム
(選手代表)

かめざわ えいざぶるう
亀澤 栄三郎さん

75歳

●参加歴：1回目

仲間と挑んだねんりんピックの思い出

「東京都 A、鈴木〇〇さん…。まるで、プロゴルフのテレビ中継を観ているようなアナウンス。

10月20日9時32分、岐阜関カントリー倶楽部西コース1番ホール、20組目。「イワテケン、カメラザワ…。」ティーイングエリア後方の数段高い所で東京と盛岡から応援(?!)に駆けつけた家族が見守るなか、4人でのラウンドが定刻にスタートした。

その前々日には、三笠宮家の彬子さまご臨席のもと、長良川競技場で総合開会式が行われた。本来は2020年度に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期。翌年には中止決定となり、三度目の正直ということであった。

開会式では、主催者あいさつ、彬子さまのお言葉、選手宣誓、炬火点火に続き、いろいろな催し物が披露された。会場には小中学生の原画をもとにした横断幕がずらり。我が県は、さん

さ踊り、わんこそば、宮沢賢治を意識したであろう蒸気機関車等々。一番印象的だったのは、この夏、甲子園球場を大いに沸かせた岐阜商業高等学校の硬式野球部と応援部による大会参加者への応援エールであった。

開会式終了後、ふれあい広場を散策していると、そこでもあの応援をやっているではないか。周囲はすごい人だかり。岐阜県の高校野球(硬式、軟式どちらも)の強さの秘密は、この辺りにあるのかなと思った。

競技はほぼスルーで後半に進んだ。年間100回以上ラウンドする東京都のAさん、同じく120回以上の名古屋市のBさんはいずれも会社オーナーで、経営は後継者に任せているとのこと。所属クラブの女子選手として4人の枠の中に入りたくと活躍中のCさん。そんな話をしながら迎えた17番パー3でバーディー、最終18番はパー。結果を知ったのは帰りのバスの中で、最後の2ホールに助けられて個人戦は第5位。同組のCさんが教えてくれた。天候にも恵まれ、素晴らしいコースで、キャディーさんにもお世話になり本当に楽しいラウンドだった。

交歓会を終えバスに乗り込むと、窓の外では岐阜関カントリー倶楽部のスタッフの皆さんが横一列に並んで手を振ってくれていた。ああ、これが、「ねんりんピック岐阜2020～2025」だったのだなと。

最後に、岩手県代表の工藤篤雄さん、高橋好治さん、2025年6月2日の代表決定以来、そして、10月17日からの4泊5日、食事もゴルフもともにし、楽しい思い出をつくることができ、本当にありがとうございました。



総合開会式会場のモニュメントの前で。(右端)



卓球

鬼っこ岩手
(選手)

ひろの しょうそう
広野 昭三さん

77歳

● 参加歴：1回目

レベルアップして、全国の仲間と再会したい

第37回を迎える歴史ある大会について、大先輩が参加し活躍されたお話などを聞くうちに、私も機会があれば参加したいと思うようになりました。並みいる強豪の中で、自分がどのくらいの成績を残せるか試してみたい——そんな想いもありました。今年には岐阜県の開催で、岩手から比較的近距离にあること、あわせて、関ヶ原の戦いなど歴戦の地の文化や古城に触れる良い機会だと思い、4月の県予選会に参加しました。

私は、ラージボール卓球に取り組んで約20年になります。健康維持を兼ね、子育ても終わって卓球を趣味として楽しむ老若男女の仲間と一

緒に、週2～3回、クラブで練習をしております。

今回、初めてねりんピックに参加し、全国から集まった60歳以上の皆さんが、日頃の練習の成果を発揮しながら澁刺と技を競い合っている姿を見ることができました。長年培ってきた技術は、年齢を感じさせない堅実な試合運びとなって表れ、対戦を重ねるごとにそのレベルの高さを実感しました。

全63チームが集結して迎えた大会初日。3チームによる予選第1次リーグ戦で、岩手県は佐賀県、岐阜県との対戦で2勝し、1位で通過。続く茨城県、大阪府との1位ブロック第2次リーグ戦では2敗。決勝リーグ7チームには残れませんでした。

チームは、北上ひばりクラブ（北上市）から5人、ラージフレンド岩手（盛岡市）から1人、合計6人で出場。大会までの6カ月間、合同練習をした成果もあり、応援いただいた仲間「勝ってしまいました」と報告することができました。

全国には、元気に技術を高めて研鑽されている多くの方々がいることを実感しました。試合の合間には、各県の皆様との交流もできました。次回お会いする時には、レベルアップした姿をお見せできるよう努めたいと思います。

今大会の運営や交通宿泊手配、連絡などにご尽力をいただきました関係者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



合同練習の成果を発揮し、大健闘した鬼っこ岩手チーム！（後列右端）



健康マーじゃん

ふじわら じんえい
藤原 甚英さん

卓上の紳士
(選手)

60歳

●参加歴：1回目

チームワークでつかんだ「銀メダル」

私のねんりんピック初参加は、団体戦2位、個人戦11位という素晴らしい結果に終わることができました。これも出場の機会を与えてくださった秋田県健康マーじゃん推進実行委員会をはじめ各関係者の皆様のおかげと感謝しております。

今回出場した4人は、月1回定例会が開催される雀喜会という任意の団体からの選出であり、普段はライバルとして対戦しているメンバーでもあります。出場が決まってからは、数多くの「ミーティング」と「飲み会」を重ねて、団結力を深めたうえでの出場となりました。

大会会場となる岐阜県には、地元の大館能代空港から飛行機で東京に出て、新幹線で秋田県選手団が待つ名古屋へ入ることにしました。当然、新幹線での車中は「飲みニケーション」で盛り上がり、チームワークも一段と深まりました。到着後は無事に秋田県選手団と合流し、県選手団との親睦会に参加。時間が短いと感じるほど、非常に楽しい親睦会であったと思います。

大会初日の10月18日には長良川競技場で、

皇室から彬子さまをお迎えし、盛大に総合開会式が開催され、感動するとともに出場して良かったと思いました。

10月19日からいよいよ競技開始です。初日の団体戦では、それぞれ4人がマイナスにならないよう心がけ、常に点数を報告しながら上位を狙うという作戦にしました。2回戦が終了した時点で全体の11位でしたが、団体戦は8位までが入賞ということだったので、昼食後も引き続き頑張ろうと気を引き締めました。3回戦終了後に順位は9位となり、あと一つ順位を上げることを目標に4回戦に臨みました。

結果は、メンバー4人ともにプラスの点数となり、入賞は間違いなしと確信。順位表を確認したところ見事に7チーム抜きの2位となり、銀メダルを獲得することができました。良きメンバー、そして良き対戦相手に恵まれ、4人のチームワークが実を結んだ結果だと感じました。

最後に、大会期間中は毎晩、飲みニケーションを図り、楽しく参加できたことを大変うれしく思うとともに、大会運営に関わった地元関係者の皆様に感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



表彰式の前に、銀メダルを獲得した卓上の紳士チーム全員で。(左端)



2日目の競技開始前に。作戦を練って上位を狙う。(後列右端)



北海道・東北
福島県

2025 GIFU
NENRINPIC

ソフトボール

D.M.C 常磐シニア
(選手代表)

さとう あきら
佐藤 彰さん

65歳

●参加歴：2回目

かけがえのない仲間との素晴らしき4日間

待ちに待ったねりんピックは、私にとっては今回が2度目の出場。朝5時に貸切バスで仲間15名と和気あいあいといわき市を出発。途中、東名高速道路で大渋滞に巻き込まれ、監督会議に間に合うかぎりぎりの状況になり、トイレ休憩のみで一路、岐阜県揖斐川町へ。出発から10時間かけてようやく揖斐川町にたどり着きました。会場では、地元の皆様の温かいお出迎えを受け、長旅の疲れも吹き飛びました。

試合1日目は、宿泊先が隣県の長浜市のホテルだったため、試合会場の揖斐川町までは片道1時間の移動でしたが、途中、関ヶ原古戦場を眺めながら戦国の世の兵どもに思いを馳せつつチームのスイッチを入れました。試合会場では、隣県の茨城県代表の選手と互いの健闘を誓い合いました。1回戦では広島県代表に完封勝利、続く鹿児島県代表には最終回ツーアウトまで1対0で負けていましたが、全員でつないでつないで逆転サヨナラ勝ち。まずは、目標だった全国大会での2勝を勝ち取ることができました。

試合2日目の、関ヶ原古戦場で仲間たちと戦

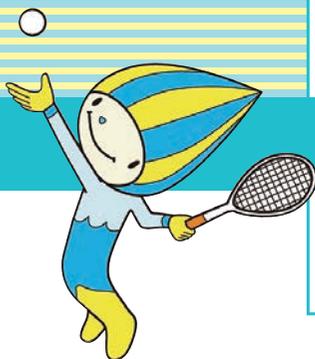
いのスイッチをオン(笑)。3回戦は長野県代表に勝利し、準々決勝は愛媛県代表に、2回戦と同様に最終回まで1点ビハインド、そこからなんとか粘って1対1の同点に追いつき、守備メンバー9名によるくじ引き抽選となりました。抽選結果をベンチで待つ心境は心臓ドキドキでしたが、今大会はチームに不思議な運もあるようで、5対4で勝利し、まさかのファイナル(最終日)まで残りました。

試合3日目の、関ヶ原古戦場の徳川軍本陣跡を眺めながら意気揚々とファイナル会場に向かいました。準決勝は奈良県代表に勝利し、福島県勢初の決勝進出を果たしてひと安心。決勝は地元岐阜県代表の完璧な走攻守に敗れましたが、地元の対戦相手にもかかわらず、岐阜の方々の福島県への熱い応援をいただき、胸に込み上げるものがありました。

素晴らしい演出の表彰式は、我がソフトボール人生一番の思い出になりました。岐阜県の皆様の心温まるおもてなしに感謝いたします。本当にありがとうございました。岐阜県最高!



記念にいただいた横断幕でピース。(左から2番目)



ソフトテニス

福の島
(監督兼選手)たけだ しゅうさく
武田 秀作さん

63歳

● 参加歴：1 回目

ねんりんピックは人と人をつなぐ架け橋

ぎふ大会に、福島県代表チーム・福の島の監督兼選手として参加させていただきました。監督としてチームをまとめる責任と、選手としてコートに立つ緊張感、その両方を味わえる貴重な大会でした。大会は岐阜県の澄んだ空気と雄大な自然に囲まれた会場で行われ、年齢を超えた熱い戦いが繰り広げられました。

ところが、初戦開始は10時だったにもかかわらず、私たちが会場入りしたのは試合直前。実は受付は8時必須だったのです！受付の方には大変ご心配とご迷惑をおかけしましたが、そのおかげで緊張する暇もなく試合に突入。結果的に、普段以上のパフォーマンスを発揮できたのではないかと思います。

試合は、全国から選ばれた代表選手との対戦。簡単に勝てる相手ではなく、素晴らしいプレイに押される場面もありました。しかし、仲間の声援と粘り強いプレイで流れを引き寄せ、最後まであきらめない戦いができたことが印象に残っています。

監督としては、チームの雰囲気づくりに最大限気を配り、選手の膝や腰のコンディションを確認しながら戦術を練り直す場面もありました。選手一人ひとりが自分の役割を果たし、笑顔で試合する姿を見ると、勝敗以上に「この大会に参加できてよかった」と心から思えました。

結果として、福島県チームは入賞こそ逃しましたが、全員が最後

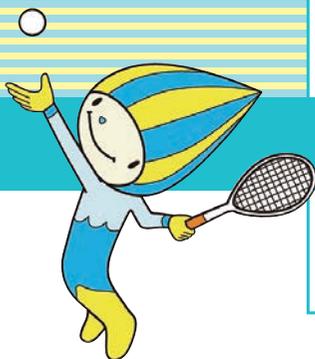
まで笑顔でプレイし、無事に大会を終えることができました。監督として、選手として、二重の責任を果たせたことは私にとって大きな自信となり、これからの活動への原動力になっています。

最終試合後、大会役員の方から地元の小学生が作ってくれた歓迎旗をいただきました。「がんばれ福島県！」の文字とともに、キビタン、赤べこ、あかつき、サンふじ、喜多方ラーメンなど、福島県のことを一生懸命調べて丁寧に描いてくれたことが伝わる素晴らしい旗でした。大会役員を含め、岐阜県の皆様には心から感謝申し上げます。

福島県代表として戦えた誇りと、仲間と過ごした時間は一生の宝物です。ねんりんピックは単なる競技大会ではなく、人と人をつなぐ架け橋であり、健康と絆を育む場だとあらためて実感しました。これからもソフトテニスを通じて心身を鍛え、仲間と笑顔でコートに立ち続けたいと思います。



試合会場で、福の島チーム全員で記念撮影。(左端)



ソフトテニス

恋の街札幌
(選手)よしの
吉野 さおりさん
60歳
●参加歴：1回目

恋の街札幌～♪♪ 楽しくやろう！ イェーイ！！

大垣でテニスがしたい！—若い頃に岐阜の実業団でプレイしていたテニス仲間の希望でした。男子には仕事の休みを1年前から取ってもらい、ミックスは何度もねりん出場経験のある先輩にお願いしました。私はいつも組んでいるペアが北海道チームとなるため離れ離れになりましたので、組んだことがないけれど気心の知れた仲間をお願いします、札幌市と北海道が決勝戦で戦うという目標で臨みました。

お手製の「恋の街札幌」の応援幕を掲げ、うちわを振って称え合い健闘しましたが、惜しくも予選2位で初日が終了しました。2日目は予選で2位になったおかげで、念願の大垣市で試合ができました。しかも2位トーナメントで優勝！まるで決勝トーナメントで優勝したかのような盛り上がりになり本当にうれしく思いました。

ねりんピック＝高齢者の交流大会!? とい

うイメージが強く、少し甘く見ていましたが、実際はどのチームもレベルが高く素晴らしいプレイの連続でした！1日目、2日目と会場が変わり、対戦相手でもなくとも「昔、札幌に住んでいた」「親戚がいる」「旅行で行った」などとお声がけくださり、話に花が咲いて交流の輪が広がりました。

岐阜メモリアルセンターでの総合開会式では、全国各地ののぼりが最前列に一齐に並び、まさに織田信長の出陣式のような壮観な眺めでした。

芝生広場では、岐阜の名産品、体験コーナー、日本三大桜の一つである根尾谷淡墨桜を題材にした陶壁画「淡墨桜大陶壁」が、リアリステックで今にも花びらが散ってきそうで美しいものでした。体験コーナーでは鎧兜を装着するという貴重な経験もしました。

今大会は移動も食事も一齐で、宿泊は3人部屋、3人分の荷物で足の踏み場がない状態でしたが、それがまた昔懐かしの修学旅行のようで思い出の一つになりました。

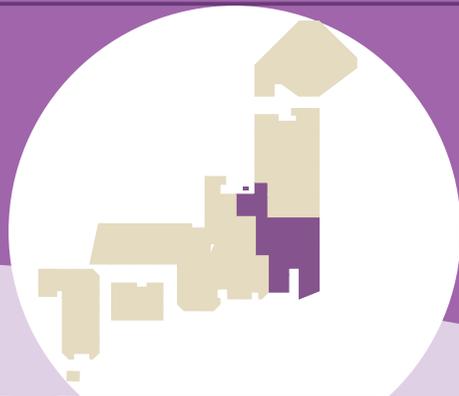
今回のメンバーは地域の各クラブに所属しており、中学生から一般など各年齢層とともに市内大会、全道大会、全国大会入賞を目指して日夜練習に励んでおります。若い仲間たちには、壮年になってもこのような大きな大会に参加して楽しめることを伝えたいと思います。

最後になりますが、岐阜県の大会運営の関係者の皆様、札幌市老人クラブ連合会、札幌市役所の皆様にご世話になりました。



試合開始前に、チーム全員で集合写真。(前列左端)

関東・甲信越



p.14 群馬県

武井 績さん
健康マージャン



p.15 群馬県

代田 美知子さん
グラウンド・ゴルフ



p.16 埼玉県

赤松 博嗣さん
サッカー



p.17 千葉県

今泉 由紀子さん
ゴルフ



p.18 千葉県

鈴木 助市さん
グラウンド・ゴルフ



p.19 東京都

山本 喜清さん
サッカー



p.20 東京都

奥野 典子さん
インディアカ



p.21 神奈川県

武井 清美さん
マラソン



p.22 神奈川県

大塚 三郎さん
将棋



p.23 山梨県

永田 務さん
水泳



p.24 山梨県

吉岡 文昭さん
ウォークラリー



p.25 長野県

三井 学さん
ソフトバレーボール



p.26 長野県

渡邊 和枝さん
水泳



p.27 横浜市

相澤 光さん
グラウンド・ゴルフ



p.28 横浜市

高梨 輝夫さん
弓道



p.29 川崎市

長沼 由紀子さん
テニス



p.30 川崎市

高山 和美さん
太極拳





健康マージャン

えふしー ぐんまちゃん
(選手代表)

たけ い いさお
武井 績さん
71歳
● 参加歴：8回目

人生、いつ何が起こるか分からない！

長い間、人生を過ごしていると、いろいろなことに遭遇します。今までサッカーでねんりんピックに参加させていただきましたが、サッカーはゲーム中、いつ何が起こるか分からないと言われております。今回は、健康マージャンで貴重な体験とショックを味わわせていただきました。

初日の団体戦で、群馬県選手団4名は、皆それぞれのグループに分かれて試合に挑みました。初出場の緊張も影響してか、残念ながら半チャン4回戦を消化して総合点はマイナス66.9ポイントで、70チーム中56位という成績でした。翌日の個人戦で、私は序盤に大きなミスをしてしまい、1・2回戦で連続最下位となってしまいました。3回戦では、起死回生を狙い、なんとか1位となりました。

最終の4回戦になり、名誉挽回のため、強気に牌を切り勝負を賭けました。終了間際の南場3局の親番で、それまでトップを走っていた私

は、なんとかこのまま終わればと思い、終盤は振り込まないように慎重にゲームを進めました。残り時間を気にしていると、それまで最下位だった下家から、「つもりました」の一言。なんと！役満の国士無双のつも上がりでした。他のメンバーたちも、「えー、信じられない！」といった表情で、きれいに並んだ牌を傍観していました。

神様はなんと不公平なのだろうか。私が親なので、上がり点3万2000点の半分の1万6000点を払い、1位から3位へ天国から地獄へと落ちた瞬間でした。「人生はいつ何が起こるか分からない」という言葉がこれほど身に染みたのは久しぶりでした。

最終日は、岐阜城の観光をしながら、「天下布武」という大義を示し常に先見の明があった武将、織田信長の偉功に想いを馳せ、岐阜の街を後にしました。帰り道、名古屋の有名なひつまぶし店で昼食をとりました。関西のウナギは

関東のウナギと違い、蒸さないで焼くと聞いていましたが、あの炭火で焼いた黒焦げのパリパリ感はなんとも言えない香ばしさと独特の風味がありました。ごちそうさまでした。

4泊5日にわたる不良老人たちとの旅、ゲストプロ雀士たちとの記念撮影など、楽しく思い出に残る出来事でした。またの機会がありましたらリベンジしたいと思います。



応援に訪れた群馬県係員の皆さんと集合写真。(右から2番目)



グラウンド・ゴルフ

しるた みちこ
代田 美知子さん

74歳

●参加歴：1回目

群馬県
(選手)



晴れやかな祭典で学生時代にタイムスリップ

友人に誘われて、ねんりんピックに参加が決まり、不安と緊張の入り混じるなか、いよいよ10月17日の群馬県選手団の出発の日が来ました。高崎駅東口に揃いのユニフォーム姿の選手が3台のバスに分乗し、初日の目的地、昼神グランドホテルへと向かいました。長旅のバスに揺られて緊張も徐々にほぐれ、まもなくホテルに到着し、総勢98名の大夕食会が開かれ、翌日からの本番に備えて楽しい時を過ごしました。他競技に参加する選手とも交流に花が咲きました。

翌日18日は、しばしバスに揺られて総合開会式会場の長良川競技場に到着。会場に入るや否や、あまりにも盛大でびっくりすることばかりでした。岐阜県の皆さんが一体となり開会式を盛り上げてくださり、高齢者になっても、高校時代のインターハイを超え、まるで4年に一度のオリンピックにでも参加している気分でした。岐阜県の皆さんに感謝、感謝！です。ぎふ大会は、新型コロナウイルスの影響で延期、中止を経て今回の開催となり、私が出場できたことは本当にラッキーで、

幸せ者だと思っています。

翌日のグラウンド・ゴルフの大会は、有名な競走馬・オグリキャップを輩出し、馬の町とも言われる笠松町の多目的運動場で行われました。グラウンドは素晴らしく整備された競技場でした。2日間にわたって競技が行われましたが、私もオグリキャップのように脚光を浴びたいと思いつつも1日目は散々の結果でした。2日目に取り戻そうと誓い頑張りましたが、結果は、入賞は遙か彼方……。しかし、仲間の岸一男さんが見事に5位に入賞し、本当にうれしかったです。表彰台の岸さんの姿はオグリキャップのように輝いていました。その日の夕食は、グラウンド・ゴルフのメンバー3人で盛大に祝杯をあげました。

2日間のプレイ中は、この大会のテーマである「清流に輝けひろがれ長寿の輪」の通り、皆さんと和やかに交流ができ、またひとつ大きな宝物ができました。何よりも、期間中に温かくプレイヤーを盛り上げていただいた笠松町ボランティアの皆さん！

ホールインワン大会に熱い応援をしてくれた孫のような中学生の皆さん！本当におじいちゃん、おばあちゃんはうれしく、楽しい時間でした。ありがとう！

全国健康福祉祭、ねんりんピック最高！笠松町の皆さん、2日間にわたり温かいおもてなしをありがとうございました。



真剣な表情で競技に挑む。



群馬県チームの仲間と一緒に。(中央)



関東・甲信越
埼玉県

2025 GIFU
NENRINPIC

サッカー

埼玉シニア
(選手)

あかまつ ひろつく
赤松 博嗣さん

65歳

●参加歴：4回目

やったー！ねらって取ったぞ「金メダル」

ねんりんピックには、2022年開催の神奈川・横浜・川崎・相模原大会に初参加し、愛媛県、鳥取県、そして今年のぎふ大会で4年連続出場になります。過去3大会では銀、銅、金メダルを獲得し、ぎふ大会では必ず「金」メダルを取ろうと心に決めて参加しました。

埼玉シニアチームは、参加募集に応募して集まった、普段は別チームで活動している選手で構成されています。4月に登録選手19名が決まると、事務局として大会に向けた準備を始めるわけですが、そこは4度目の事務局なので手慣れたものです。

ただ、今回の目標はとっとり大会に続く連覇なので、今までとは少し違いました。サッカーを楽しむながらも勝つチームづくりを心がけ、まずは練習試合の相手探しに奔走しました。

同じ埼玉県から出場するさいたま市チーム、群馬県チーム、埼玉県70選抜チーム、水曜会チームなどにお願ひし、できるかぎり多くの練習試合を企画しました。

夏には、交流のある山形シニアと対戦するため

猛暑の中、2泊3日で山形遠征も行いました。また、チームの結束を高めるため、作戦会議と称しカラオケをしながら、戦術などについて語り合いました。

私は、サッカーを始めたのが50代半ばと遅かったのですが、サッカーを通じてたくさんの仲間と出会い、その仲間とねんりんピックを楽しめたことは一生の宝物です。

さて、いよいよ出発の時。東京駅に集合して、いざ岐阜県へ。皆緊張しているかと思いきや、缶ビール片手に旅行気分。大会だけではなく移動もねんりんピックの醍醐味ですね。総合開会式では地元の高校生と記念撮影をするなど和気あいあいと過ごせました。

大会1日目、初戦の相手はなんと夏に遠征した山形県のチーム、何とか前半を0対0でしのいで、後半2点を先取して勝つことができました。

勢いそのまま2日目も負けることなく、念願の金メダル獲得で肩の荷がおりました。

2026年のねんりんピックは我が埼玉県での開催となります。これまでに参加したねんりんピックでボランティアスタッフの方などから受けたおもてなしに感謝するとともに、開催県の一員として、全国の皆様の来県を心よりお待ちしております。

チーム全員で勝ち取った優勝。喜びの笑顔が弾ける記念写真。(後列右から3番目)





関東・甲信越
千葉県

2025 GIFU
NENRINPIC

ゴルフ

千葉県
(選手代表)

いまいずみ ゆきこ
今泉 由紀子さん
76歳
●参加歴：4回目

今までで一番心に残ったねんりんピック

10月18日から21日に行われたぎふ大会に、岐阜関カントリー倶楽部で開催されたゴルフ種目で参加しました。ねんりんピックとは、サッカー、テニス、ラグビー、ゲートボール、グラウンド・ゴルフなどのスポーツ系や、囲碁、将棋、健康マージャンなどの文化交流系など、合わせて30種目ほどの競技に、1万人あまりの60歳以上の選手が集まる全国大会です。

同じ種目に毎年連続して出場することはできませんが、連続でなければ何度でも参加することができます。千葉県では毎年、県大会として予選会が開催されており、上位3名がねんりんピックに推薦されます。私は2017年のあきた大会にゴルフで初出場し、その後、和歌山大会、神奈川・横浜・川崎・相模原大会を経て今回が4回目の参加でした。

ゴルフ競技は新ペリア方式ですが、バsgログロ、年齢別(60歳以上、65歳以上、70歳以上)の上位入賞者、および団体賞が表彰されます。

全国から選ばれた各都道府県、政令指定都市の代表選手は今回174名で、そのうち女性は10名でしたが、ローハンディの方たちが多く、レベルがとても高い印象でした。グロスの上位は無理ですが、ねんりんピックならではの高齢者賞があり、私は毎回受賞しています。

本番の朝は肌寒く、慣れない気候に少し戸惑いました。何度ねんりんピックに出場しても緊張しないことはありません。しかし、ティーショットの頃には晴れ間も見え、良い天候に恵まれました。それと同時に緊張も少しずつほぐれていきました。初めてお会いする方たちとどんなラウンドができるのか、自分の実力を発揮することができるのか、どうなるか分からないけれど精一杯頑張ってみようと思いました。

今回は、練習ラウンドでは徳島県の方たちと、本番では鹿児島県、岩手県、島根県の方たちとラウンドしました。緊張しながらでしたが一緒にゴルフができ、いろいろな方たちと知り合えたことは最高の喜びとなりました。

地元の老人クラブの連合会「ベイシニア浦安」では、年に2回大会が開催されています。地域での交流も大切にして、ゴルフを続けていきたいと考えています。

競技終了の翌日、飛騨高山と白川郷を観光しました。本当に楽しく、今までで一番思い出に残るねんりんピックとなりました。



千葉県チームの選手と記念撮影。(中央)



グラウンド・ゴルフ

すずき すけいち
鈴木 助市さん

千葉県
(選手代表)

87歳

●参加歴：2回目

県代表として岐阜へ、感謝と出会いの記録

私は今年87歳になりましたが、県代表選手に選出されることは思いもよらぬことで、荣誉であり喜びでもありました。

そんな想いを胸に、遠く離れた岐阜県まで新幹線に向かいましたが、道中は心晴れ晴れとして過ごすことができました。

私たち千葉県代表は男女合わせて5名で参加しました。県内各地から集まったため、互いに気心も知れず不安もありましたが、そこはそれ、スポーツを楽しむ者の集まりです。わずかな時間で皆が心を開いて和気あいあいとした雰囲気となり、それぞれの生い立ちや今の自分の立場、郷土の様子などを話すうちに打ち解け合い、ここで初めて千葉県選手団の一員であることの気概が湧いてきました。

大会会場に到着した際には、係員の皆さんが一斉に手を振って歓迎してくださり、私たちもそれに応えて手を振り、交流の輪が広がっていくのを感じました。

また、もう一つ会場で驚いたことがあります。

それは、なんと98歳の方が出場メンバーに入っていたことです。グラウンド・ゴルフを愛することが、いかに健康づくりや生きがいづくりにつながり、長寿の源となっているかを実感する瞬間でした。このことは、自分たちのクラブ会員にとっても励みになるはずで、「年は取ってもまだまだ頑張れる」とお土産話として伝えたいと思いました。

私たちを迎えてくださった関係者の皆様の温かさや優しさも、そこかしこに満ちており、参加者の誰もが元気をいただき、岐阜に来て良かったと実感されたのではないのでしょうか。

私は、その気持ちをこんなふうに表示したいと思います。

「あ」んなに多くの人々が
「り」っぱに協力し合い
「が」んばっている情景は
「と」ても尊敬できる
「う」れしいひとときでした



緊張しながらも堅実にプレイ。



千葉県チーム全員で記念撮影。(後列左端)



関東・甲信越
東京都

2025 GIFU
NENRINPIC

サッカー

東京都B
(選手)

やまもと よしきよ
山本 喜清さん

61歳

●参加歴：1回目

地域と人と時がつながるねんりんピック

東京都では、前年の秋に開催される都の「シニア健康スポーツフェスティバル」のサッカー大会がねんりんピックの予選を兼ねています。30数チームがA・Bの2ブロックに分かれてトーナメント方式で試合を行い、各ブロックの優勝チームを中心に、ベスト4に入ったチームの選手を加えて2チームを編成し、ねんりんピックに参加しています。

今回、所属チームがBブロックでベスト4に入ったことから、サッカー東京都Bチーム代表メンバーとして、初めてねんりんピックに参加させていただきました。

事前に配布されたプログラムで、各県・都市のサッカー代表チームの参加者名簿を確認したところ、三重県、広島県、広島市、横浜市の代表チームに、かつてそれぞれの地で一緒にプレイした懐かしい名前を発見！岐阜での再会に胸を踊らせながら大会に参加しました。

サッカーの交流大会は、各チームで試合の時間や会場も異なるため、開会式会場での再会を期して空き時間に足を運び、昔の仲間と再会を果たすことができました。

故郷の三重県伊勢市の高校選抜チーム時代のコーチ、チームメイトとは実に44年ぶり、かつて在住した広島のチームメイトとは10年ぶり、横浜のチームメイトとは7年ぶりの再会となりました。

チームとしては、普段は東京都リーグでしのぎを削っている選手と東京の代表としてチームメイトとなり、

大会期間中、学生時代の合宿のように親睦を図りながら一体感を高めていきました。我が東京都BチームはCブロックに入り、初日に大分県、岐阜県Aと、2日目に鳥取県と対戦しました。結果は、それぞれ3対0、2対0、1対0で勝利し、3戦全勝でブロック優勝を果たすことができました。個人的には、MFとして出場し、岐阜県Aとの試合で追加点を挙げることができました。会場では、飛騨市の大会関係者、スタッフ、ボランティアの皆様の温かい歓迎、おもてなしを受けながら、大分、岐阜、鳥取の代表チームと勝利にこだわりながらフェアプレイで戦い、試合後はお互いの健闘を笑顔で称え合うなど、スポーツの持つ素晴らしさを実感することができました。

スポーツや文化を通じて地域と人と時がつながるぎふ大会に参加させていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。



優勝した東京都チームの仲間と。(後列右端)



インディアカ

おくの のりこ
奥野 典子 さん

70歳

●参加歴：2回目

CIAO!

(監督兼選手)

チームワークで勝ち取った感動の準優勝

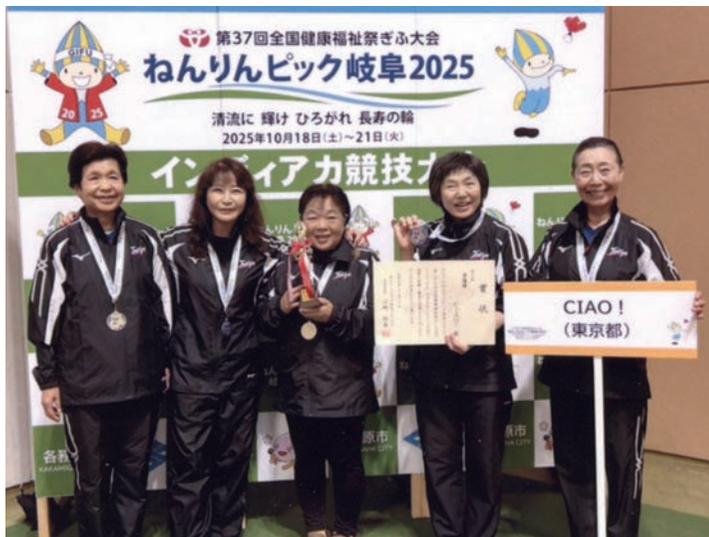
我がチームメンバーはインディアカが大好き！自然と惹かれ合ったメンバーが集まり、公式戦に出場して上部大会へ挑戦しようと8年前に結成しました。インディアカは年齢を問わず、身体の動く限りできるスポーツで、私以外のメンバーは20～30年の経験を持つベテランプレイヤーです。インディアカは、1本の羽(インディアカボール)を4人のプレイヤーでつなぐ競技。レシーブ・トス・アタックと、バレーボールの要領で相手と戦います。とはいえ、私たちは「楽しむこと」を忘れずにいます。だから、いつも笑顔が絶えません。

私自身は、2022年の神奈川・横浜・川崎・相模原大会に続く2回目の参加で、今大会は、監督・キャプテンとして参加しました。コート内では、4人それぞれに個性があります。良いところを引き出し、良くないプレイにはやんわり指摘をします。コートの外でも手に汗を握り、ともに戦います。ねんりんピックは、全国から集まったインディアカが大好きな方々と試合ができ、とてもワクワクします。楽しみながらも勝負にこだわり、素敵な経験になりました。

大会1日目の予選リーグでは、私たちらしい「つなぐプレイ」が発揮されて、1位で通過！その日の夕食は、参加した全チームとの会席が設けられ、大盛り上がりでした。開催地の熱いおもてなしに感謝でした。

大会2日目の決勝リーグでは、1試合目の強敵・愛知県と対戦。ひとつのパスミスが次のプレイのミスになり、早めのタイムを取っても修復できず、負けてしまいました。2試合目の1セットまで調子は戻らず、私は監督として檄を飛ばしました。「このままでは目標のメダルを東京に持ち帰ることができない！やる気が失せているなら私が交代する！」。いつになく強気の私の気持ちが伝わったのか、それ以降は調子を取り戻し、準優勝、銀メダルを獲得。チームワークの大切さを痛感しました。

岐阜県の温かい歓迎や、総会開会式で披露された各種目開催地の市長による俳句、各務原市での開始式など、オリンピック選手になったかのような気分を味わうことができ、この場に立てたことに感動しっぱなしの大会でした。本当に素晴らしい大会をありがとうございました。



「メダルを東京に持ち帰る」。有言実行の快挙！(中央)



関東・甲信越
神奈川県

2025 GIFU
NENRINPIC

マラソン

5 km
(選手代表)

たけい きよみ
武井 清美さん

70歳

● 参加歴：3回目

ついにやった！ 憧れの表彰台

マラソンは70歳未満と70歳以上で分かれている。神奈川・横浜・川崎・相模原大会は12位。えひめ大会は9位だった。私にメダルはほど遠いだろうけど、チャンスがあるとしたら70歳の今回しかないな、と思っていた。練習に励まねばと思うものの、この夏は稀に見る猛暑。町中を走っているつもりでも歩いている人に追い抜かれる始末。おまけに大会前になって大食が続き、体重2kg増で体が重くて仕方がない。参加者名簿を見ると、今回の5kmは3km、10kmに比べて極端に少なく、4人（後に1人追加）となっていた。「完走すれば入賞だし、1人抜けば銅メダルだよ」と仲間と言われる。

いよいよ5kmのスタート。男子・女子・年齢に関係なく皆一緒のスタートなので大勢だ。70歳以上のゼッケンをつけた女子3人は偶然近くにいた。速そうだ。ウェアの着方など格好で分かる。銅メダルは無理だなと悟る。スタートするとたちまちランナーたちの背中が小さくなっていった。まるでハイウェイを車がかっ飛ばして行くようだ。私の後ろに人はいない気がする。こんなにも走力が違うのか。もう私、走るのやめたほうがいいかな。仕方がない、自分は自分のペースで行くしかない。これ以上速く走れないし—など、さまざまなことが思い浮かぶ。

やっとゴールが見えてきた。フィニッシュ。係の方が札をかけてくださる。見ると3位とあるではないか。えー、私1人抜いたのかな。ぼつりぼつり抜いたのは70歳未満の人だと思っていた。後で「実は間違いでした」と言われるのではないだろうか。しかし、その心配は杞憂に終わった。

「5km70歳以上、3位、武井清美さん」名前が呼ばれた。壇上に上がる。銅メダルを首からかけていただく。まるでアスリートになったかのような気分。私が表彰台に上がっているなんて信じられない想いだ。70歳にして人生初めての経験。こんなことが起こるなんて、人生分からないなあとしみじみ思う。

今回の神奈川県選手団は、これまでも増して強者ぞろい。皆さんフルマラソンを相当のレベルで走る。心優しくて気さく。開会式の後は、ロープウェイに乗り岐阜城に行った。写真もたくさん撮っていただいて、良いアルバムができた。帰りは小田原で、お疲れ様会と称して大いに飲んでおしゃべりをして、別れを惜しんだ。ねんりんピックをきっかけに交流の輪が広がっている。皆さんありがとうございます。



アスリート気分で銅メダルを胸に。



将棋

かもめ
(選手代表)

おおつか さぶるう
大塚 三郎さん

73歳

●参加歴：1回目

将棋が結ぶ笑顔と真剣のねりん世代

対局時計の時間が切れ、「負けました」と深く頭を下げる。

1回戦、浜松チームと対戦。ちょっとした相手のミスもあり、3対0で全員が勝てました。「おっ、もしかしたら」と思いましたが、2回戦は1対2で負け。やはり大阪チームは強いや。3回戦、火の国熊本チームとの対戦は1対2で負け。結局1回戦は勝てたけれど、2回戦、3回戦は負けただけで予選通過ならず。翌日、個人戦に挑む。チームの1人が2回戦まで出場しましたが、準決勝に出ることができず敗退。残念。チャンスはあったのに、錯覚は一瞬にして幻想となりました。

思えば、ねりんピックの話がきたのは6月初め。全国の強豪が集まる大きな大会に、私が参加してもいいのかなと戸惑いましたが、自信はないものの、どのくらい通じるのか試してみたい気持ちもあり、出ることにしました。大会の日が近づくにつれ、説明会や支部の顔合わせや練習試合などが続き、だんだんと不安になっていきましたが、何回も参加している先輩が「楽しんでくればいいんだよ」と言ってくれてプレッシャーが取れました。

さて、10月17日に神奈川県から出発し、一行は新幹線で豊橋駅へ。そこからはバスで、途中に豊川稲荷によって祈願。その日は蒲郡市のホテルで、みんなで美味しい食事をいただきながら和気あいあいと話に花を咲かせました。偶然、近所の顔見知りのペタンクチームの一員を見つけ、まさかこんなところで会うなんてと本当にびっくりしました。

翌日、いよいよ岐阜の長良川競技場へ。北海道から沖縄までおよそ1万人の選手団が集まり、あまりの人の多さに圧倒されました。関係者の皆

さんはさぞ大変だったと思います。本場の郡上踊りなどの催し物が披露され、無事に開会式が終わり、選手は各地区へ大移動です。将棋交流大会は、美濃加茂市中央体育館で行われました。我々は近くの自然公園内のホテルに2泊。まずはご馳走を前に明日の大会に向けて乾杯。むっ、これはうまい。塩焼きの引き締まった上品な味、私の地元の川の鮎も有名だが、負けた。隣の席では、北海道の将棋チームがビールを飲みながら賑やかに話していました。

10月19日はバスで大会会場へ。緊張の中、ボランティアの皆様がとても親切に笑顔でおもてなしをしてくださいました。競技は負けましたが、この大会に参加でき良い経験ができました。また参加したいです。健康であれば、年齢はただの数字です。



対局会場で記念撮影。
ねりんピック初参加は良い思い出に。(中央)

水 泳



平泳ぎ 25m バタフライ 25m
(選手代表)

なが た つとむ
永田 務さん

70歳

● 参加歴：2回目

素晴らしい体験にブラボー！ 感動の大会に

昨年、初めてとっとり大会に参加しました。山梨県から9時間かけて電車で移動し、92歳、85歳、そして私の3人で出場しました。行けるのか心配でしたが、ふたを開けてみると、最初から最後まで大笑いの連続で、先輩方からパワーをいただきました。

今回のぎふ大会では選手代表に指名され、競技ができるか心配でしたが、参加できることに感謝し、精一杯皆のために頑張ろうと思った次第です。

山梨県から4時間弱、県手配のバスで前泊施設の柿野温泉あさひ荘へ。夕食は鮎の姿焼き。そこではさっそく岐阜県民の信長から、戦国時代の悠久のロマンや鵜飼の情熱を感じさせていただき、たっぷり味わうことができました。

いざ、総合開会式会場の長良川競技場へ。

事前にいただいた開会式の概要冊子は厚く、入場行進の段取りを理解しなければいけないと

思いつつもなかなか理解できず、いざ本番を迎えました。広大な長良川競技場に山梨県代表選手団で集合し、緊張しながら式典会場の内部へ。すでに各県の選手が入場していて、人の渦の中で自分が競技場を歩いていることに、信じられないほどの感動を覚えました。

そして、いよいよ当県郷土の誇り、武田信玄の風林火山の大きなほり旗と各選手の小さな風林火山の手旗で入場。各県さまざまなカラーの選手ユニフォームがあるなか、当県は先輩方から引き継いだ伝統のワイン色のユニフォームで、大勢の人の視線を感じられたことがうれしく、行進中は何度も何度も涙がこぼれ落ちてしまい、手で拭いながら行進しておりました。

競技では、クロールで出場した当県の93歳の選手が飛込台から飛び込んだ瞬間、グワーッと大きな歓声上がり、拍手が出た瞬間にまた自然と目頭が熱くなりました。

全県の皆さんの心の温かさに触れて感動し、素晴らしい体験ができたことにより、ぎふ大会が成功していることを肌で感じた次第です。

何年も前から今大会の準備をしていただきました大会関係者の皆様、ありがとうございました。大変感謝しております。



交流会の会場で山梨県水泳チームのメンバーとともに。(右から4番目)



ウォークラリー

中央市ハイキングA
(選手代表)

よし おか ふみ あき
吉岡 文昭さん

72歳

●参加歴：1回目

ウォークラリーってどんな競技？

組み合わせ表（スタート表）を見て——

「黄 No.1 うだつコースの1番目じゃん」「先発チームがないちゅーことけ」「それじゃ他のチームの様子がわからんじゃん」「スタートしたらすぐに路上作戦会議にしますか」「後発のチームに先に行ってもらうちゅうこと……？」

——読みづらいですが、甲州弁です。

ウォークラリーは比較的馴染みのない競技ではないでしょうか。最初に若干の競技説明をさせていただきます。

まず、これは団体競技なのです。メンバーがコマ図と呼ばれる地図を読み解きながらコースを進み、チェックポイントで問題を解き、目標時間（事前には分からない）により近い時間でゴールを目指す、野外レクリエーションゲームです。チームで協力し、地図を正確に読み、観察力を働かせることが成功の鍵となります。単に速さを競うのではなく、設定された目標時間

にいかに近づけるか、そしてチェックポイントでの問題にどれだけ正解できるかで順位が決まる「ポイント制の脳トレ」でもあるわけです。

冒頭にお話ししたとおり、予想外の1番スタートで私たちは混乱しました。しかし、すぐに気持ちを立て直し、冷静さを取り戻し、的確に課題に対処した結果、経験値の少ないグループでも、優勝することができる楽しい競技であることもお分かりいただけたと思います。

さて、遅れましたが、私たち中央市ハイキングクラブのプロフィールをご紹介します。会員は約30人、60歳以上の皆さんで構成し、中央市のスポーツ協会に所属しています。毎月1回の例会で翌月以降の山行（月2回）の企画と参加者の募集、個人山行の提案と参加者の募集、市社会福祉協議会主催のトレッキング事業のサポートなど、ハイキングや登山を主な活動としたグループです。

また、従来からクラブの活動を通じて市の健康教室への参加、文化教室への協力など、ハイキングに限らず健康増進事業や文化活動にも参加してきました。これからは優勝を機にウォークラリーにも活動の範囲を広げていこうと思っています。

最後に、今回の素晴らしい開会式や会場の設営にご尽力された岐阜県、岐阜市の皆様、特にウォークラリー交流大会について企画運営された美濃市の職員、ボランティア、地域住民の皆様から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

また、どちらかの大会でお会いしましょう。



全員で力を合わせてゴールに到着し、金メダルを獲得。（左端）



ソフトバレーボール

ゼロクラウド
(選手代表)

みつ い まなぶ
三井 学さん

61歳

●参加歴：1回目

「最初で最後」の覚悟で挑んだ7人の奇跡 —銀メダルの軌跡

ゼロクラウドは、長野市や須坂市で毎週火曜日に集まり、汗を流してきた7人の仲間たちのチーム。私たちは「最初で最後の大会参加」という強い覚悟を胸に、ぎふ大会へと挑みました。目指したのは、勝利だけではなく、心に残る最高の思い出をつくること。

私は年間30以上の大会に参加してきましたが、60歳という節目を迎え、初めてねんりんピック予選大会（長野県上田市）に出場。激戦の末、優勝を果たすことができました。そして、予選で準優勝した2人をメンバーに加え、全国大会への切符を手に入れました。

大会までの1カ月間、私たちはチームワークを高めるために何度も練習を重ねました。大会では日によって使用するボールのメーカーが異なるため、慣れないボールにも対応できるように練習を行いました。初めての参加に不安もありましたが、過去に出場した先輩方から話を聞き、温かいアドバイスに背中を押されました。

大会前日、長野県選手団とともに訪れた下呂温泉では、心がほぐれ、仲間との絆がさらに深まりました。翌日、長良川競技場では全国から集まった選手団と地元の方々による華やかなパフォーマンスが迎えてくれ、交流大会の会場となった山県市では心温まる歓迎を受けました。その瞬間、「この舞台に立てたこと自体がすでに宝物だ」と胸が熱くなりました。

さらに、愛知県一宮市で単身赴任中に交流していた岐阜の仲間、新潟、石川など他県の代表として参加していた知人、そして千葉市代表として参加した高校時代の同級生との再会など、競技を超えた人とのつながりが、私の心を震わ

せました。

競技初日、山口県、大分県代表との対戦では、緊張の中でのスタート。男性4人が1セットごとに交代しながら出場し、見事1位で予選を通過。決勝トーナメントでは采配の難しさもあり東京都、福島県代表とは1勝1敗となりましたが、初出場で銀メダルを獲得することができました。

大会前は夢のようだったメダルが、今では手元に輝いています。大会が終わって数日が経った今、喜びはさらに深まり、関係者の皆様の支えがあったからこそ、この結果を残せたのだと、感謝の気持ちがあふれてきます。

この大会は、勝敗以上に、仲間との絆、人との出会い、挑戦する勇気の大切さを教えてくれました。ゼロクラウドの7人で過ごした時間は、私の人生の中でもかけがえのない宝物です。



表彰式を終え、銀メダルに沸くゼロクラウド。(左から3番目)

水泳



自由形 25m
(選手)

わた なべ かず え
渡邊 和枝さん
63歳
● 参加歴：2回目

生涯スポーツの水泳を“楽しく”続けたい

ぎふ大会は、私にとって2回目のねんりんピック参加になりました。

私がねんりんピックを知ったのは、2010年に開催されたいしかわ大会へ、他県の友人の水泳交流会の応援に行った時です。参加していた選手の皆さんが、都道府県ごとのユニフォームを着て参加している姿に、「ねんりんピックって、すごくカッコいい大会」であることを知りました。その時、私も頑張って「いつか、ねんりんピックに参加したい」と思い、水泳の練習を続けてきました。

そして初出場となったのは、2023年のえひめ大会。長野県選手団で唯一の水泳選手として一人で参加しました。不安がいっぱいでしたが、県内の他競技の方々に応援していただき、また、水泳交流大会では他県の方々に助けていただき、無事に参加できました。

ぎふ大会は、長野県選手団の水泳選手として3人で参加。一緒に参加する“仲間”がいることがとても心強く、25m自由形60～64歳の部で3位に入賞することができました。

試合後には、岐阜城を観光したり食事をしたり、とても楽しい大会でした。総合開会式

前日には、長野県選手団として下呂温泉に宿泊し、他競技の方々と交流ができました。いろいろな競技があって、参加する選手がたくさんいることにびっくりしました。また、前回お世話になった人たちと再会し、交流できたことも、とてもうれしかったです。水泳交流大会では、他地域の方々と話をしたり、互いに応援し合ったりして、素晴らしい交流ができました。ありがとうございました。

水泳は、生涯スポーツです。誰でも、いつでも、それぞれの体力や年齢、目的に合わせて泳ぐことで、健康の維持・増進につながるスポーツです。私は、子どもたちと一緒に水泳を始め、30年になりますが、これからも、少しでも長く、健康に水泳を続けていきたいと思っています。



自由形 25m でうれしい銅メダルを獲得。



心強い存在となったチームメイトと一緒に。(左端)



グラウンド・ゴルフ

あいざわ あきら
相澤 光さん

80歳

●参加歴：4回目

横浜市
(選手)

笑顔とともに“二刀流”で参加しました

ねんりんピックに初めて参加したのは、2017年のあきた大会でした。2回目は2019年の和歌山大会、3回目は2023年のえひめ大会で、愛顔のえひめ大会では6位に入賞することができました。横浜市は2年連続での参加ができませんが、今年は参加のチャンスがあり、80歳を迎える年。この記念すべき大会に参加するため、神頼みと努力を重ね、幸運にも2回の予選に優勝してぎふ大会に参加することができました。

ねんりんピックへの参加が決まり、この喜びを参加する皆さんと分かち合いたいと関係者に伝えました。そして、横浜市選手団161名の旗手をさせていただくことになり、最高の思い出となりました。結団式兼親睦会では、乾杯の依頼を受けて「皆さんが健康で元気で心に残る大会になりますように」と乾杯しました。私はアマチュアのマジックが少しできますので、余興でパフォーマンスを行い、多くの方に喜んでいただきました。必ず鳩を出せと言われたので、今回は玩具用の鳩を2羽持参。種目の違う仲間たちとも交流を深め、決意表明をして終了しました。

グラウンド・ゴルフの会場は笠松町、ダービー馬オグリキャップ誕生の地です。大会会長の古田聖人氏から参加者388名に向けた歓迎のあいさつがありました。この時は雨模様でしたが、私は自称・晴れ男。競技が行われた2日間とも雨が降らず、閉会式では「やはり晴れ男だった」と誇らしげにしておりました。

グラウンド・ゴルフは個人プレイですが、楽しくニコニコとプレイしたほうが良い成績が出ます。大会会場は素晴らしいコンディションだとすぐに分かりました。コースを管理したグリーンキーパーのご苦勞に感謝いたします。

会場にはおもてなしコーナーがあり、今まで食べたことのない赤みその豚汁が最高で、2日目の白みその豚汁も最高でした。健康相談コーナーでは、皆さんに親切丁寧に対応していただきました。特に「笑顔チェック」では100点を取り、満点は3人ほどだったと聞いてうれしかったです。

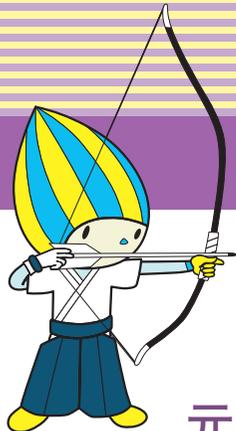
行く先々でマジックを披露し、皆さんの喜ぶ笑顔を見ることができました。今回は“二刀流”で参加したと言ってもいいかな。グラウンド・ゴルフの成績は20位でした。「勝ってもマグレ、負けてもマグレ」という気持ちで楽しみました。年齢に勝って、笑顔に勝って、成績に負けました。人生100年時代。2年後、4年後に、また夢を持って参加したいと思います。



横浜市の選手団と笑顔の集合写真。(右から2番目)



横浜市の旗手を務めた。



弓道

横浜市
(選手)

たかなし てる お
高梨 輝夫さん

76歳

● 参加歴：2回目

元気をもらったねんりんピック

ぎふ大会の弓道交流大会に出場する横浜市の代表選手7名は、開会式前日の10月17日、新横浜駅北口広場に集合した。平均年齢72歳になるメンバーの中には、早すぎて1時間以上待った人もいれば、乗る電車を間違えて遅れた人もいたが、結果オーライ。ギリギリ間に合った。

この日はヒルトン名古屋にチェックインして、横浜市選手団の懇親会兼結団式。翌18日は岐阜に移動し、長良川競技場で生憎の小雨模様の中、総合開会式が行われた。選手団全員による行進の後、さまざまな交流アトラクションが行われ、昼過ぎに閉会。午後は競技会場となる“で愛ドーム”へ移動して合同開始式。高齢者の表彰式などが行われた。最高齢は89歳だとか。元気をいただいた。

翌19日は1回目の予選の日。昨日、合同開始式が行われた“で愛ドーム”が、一夜にして15個の的が並ぶ、広々とした特設の弓道場になっていた。

予選は、5人がそれぞれ4射ずつ、計20射。これを翌日も行い、2日間の合計40射で、上位16チームが選ばれ、決勝トーナメントに進むこととなる。皆、緊張の面持ちだったが、そこは横浜の厳しい予選会を勝ち抜いてきた猛者たち（含む外柔内剛女子）。始まってしまえば、練習通りの12中。翌日も12中となり合計24中は全体2位の成績だった。

そして、決勝トーナメント。1回戦は勝利したが、2回戦で同中競射の末、栃木県チームに敗れ、我々のぎふ大会の競技は終了した。ベスト8は優秀賞ということで濃紺のメダルをいただいたが、一昨年のえひめ大会でいただいた銀色のメダルより少し軽い？と思ったのは、気のせいかな。その分だけ少し、悔しい思いはあるが、今回も楽しく弓が引けたことは何よりだった。

元より、弓道の敵は、常に自分自身。自らの未熟な射技や、心の迷いが反省点となる。だが、喜寿間近の爺にも、まだまだ成長できる（身体ではなく射技の意味です、念のため）余地があると感じられた大会でもあった。

ともに戦った6名のゆみ友（のみ友?）、お世話いただいた横浜の皆様。温かく迎えてくれた岐阜の皆様に感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました！



善戦した横浜弓士の面々。(左から2番目)



予選1回戦。
しっかりと的を見据える。



テニス

チーム等々力
(選手)

ながぬま ゆきこ
長沼 由紀子さん
63歳
●参加歴：1回目

憧れのねんりんピックに出場

学生時代、私はインターハイや国体への出場に強い憧れを抱いていた。しかし、その夢が叶うことはなかった。それでも「いつか大きな大会の舞台に立ってみたい」という気持ちは心の奥に残り続け、50歳を過ぎた頃からは“シニアの国体”とも言われるねんりんピックに出てみたいという想いが芽生えていた。ただ、どうすれば代表になれるのか、予選はいつ行われるのか分からないまま年月だけが過ぎていった。

転機が訪れたのは、テニスの先輩の「予選はGWにあるよ」という一言だった。そこで初めて挑戦への道筋が見え、急いでパートナー探しを開始。遠征慣れしている仲間の協力を得て挑んだ予選は緊張の連続だったが、何とか勝ち切り代表の座を獲得した。結果が決まった瞬間は念願の代表だ！という喜びが爆発した。

代表に決まってからは説明会や結団式があり、「川崎市代表」という肩書きに、誇りと責任を強く感じた。同時に、仕事をしている身としては平日の行事に参加するハードルの高さも実感した。もしオンライン配信などがあれば、

もっと多くの選手が参加しやすくなるのではないかと感じた。

開会式では何十年ぶりに国歌を歌い、他競技の選手と会話を交わし、まるで大人の修学旅行のような雰囲気胸が高鳴った。競技の枠を超えてさまざまな世代の仲間が集い、それぞれの思いを胸に大会へ臨む空気が会場全体を包み込んでいた。

試合はあいにくの雨で、コンディションは万全ではなかった。実力を十分に発揮できなかった悔しさは残る。しかし、「市の代表として戦った」という事実は、結果以上の価値があり、私にとって大きな財産となった。挑戦に至るまでの道のり、仲間の存在、責任感と期待を背負ってコートに立った瞬間。どれも胸に刻まれる忘れがたい経験である。

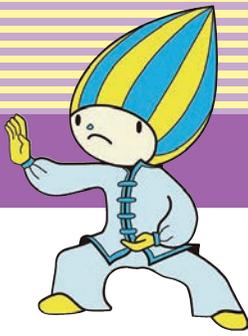
もしチャンスが再び訪れるなら、もう一度挑みたい。夢を追うのに年齢は関係ない——ねんりんピックは、そう強く感じさせてくれる舞台であった。そのためには、自分自身の日頃からの健康管理を怠らないようにしたい。



ダブルスチームのメンバーと。(右)



決勝トーナメントを目指して、気合たっぷり。(右から2番目)



太極拳

たか やま かず み
高山 和美さん

さやけし☆生田
(監督兼選手)

65歳

●参加歴：1回目

清々しい演武を目指して次のチャレンジへ

太極拳教室を始めて10年が経ちました。10年経つと、皆がだいぶ上手になってきました。ある程度のレベルになると目に見える上達が少なくなってきます。何か目標があると良いと思い、生徒たちとチームをつくり、ねりんピックにチャレンジすることを思い立ちました。

ねりんピックの太極拳は、6～7人の集団で、音楽に合わせて隊列を変えながらオリジナルの套路を表演します。片足立ちなど、高齢になると難しくなる動作も含まれています。メンバーはそれぞれ自宅でストレッチをしたり体幹を鍛えたりする努力を重ねました。

チームの皆さんは、以前から教室以外でも公園に集まって自主練をしていました。ねりんピックに向けては、全員そろって隊列を整えたり動作をそろえたりする練習を積み重ねてきました。

今回のチームは、地元密着の小さな教室でゼロから太極拳を始めた人ばかりです。特に運動経験もなく、若くない年齢で健康のために太極

拳を始めた人ばかりなので、身体能力はさほど高くありません。トップレベルの成績は狙えないけれど、動作をそろえて無心で演武し、見た人が清々しいと感じてくれるようなパフォーマンスを目指しました。「さやけし☆生田チームの演武です」と、YouTubeに上げた動画を知り合いで紹介できるレベルに上げることが目標でした。今、お友だちや太極拳に興味のある人にはYouTubeの動画を紹介しています。目標達成です。

太極拳は経絡を刺激するので、内臓や自律神経の働きが良くなります。私自身も太極拳を続けてきたおかげで、40代で太極拳を始めた頃より60代の今のほうが体力があり、身体の柔軟性、脚力も上がっています。さやけし☆生田チームの皆さんは、70代後半の方も含めて、ボランティアをしたり仕事をしたり、活動的に過ごしています。いつも太極拳を練習している公園で、清掃や花壇作りをする公園愛護会の活動にも皆で取り組んでいます。

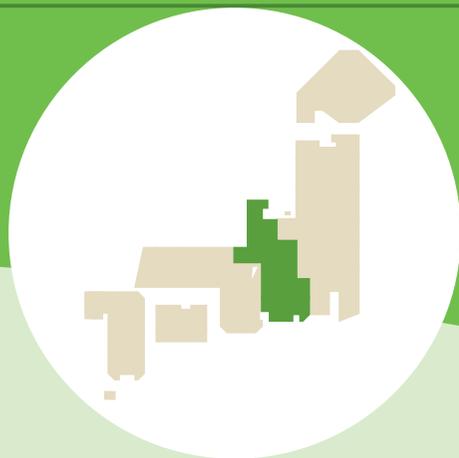
普段一緒に練習しているものの、年齢が満たずにぎふ大会に参加できず、岐阜まで応援に来てくれたお仲間がいます。その仲間が60歳になって一緒にチャレンジできるまで、ねりんピックの参加を目標に練習を続けたいと思っています。



表演を終えてチーム全員で記念撮影。(右から4番目)

動作をそろえて無心でパフォーマンス。(左から3番目)

東海・北陸



p.32 岐阜県

竹内 正康さん 
ソフトバレーボール



p.33 静岡県

大石 ますみさん
マラソン



p.34 愛知県[○]

岸 勲さん
ソフトテニス



p.35 愛知県

堀 淳子さん 
インディアカ



p.36 三重県

石原 保行さん 
パドルテニス



p.37 三重県

下村 真也さん 
ソフトボール





ソフトバレーボール

MC可茂
(監督)

たけうち まさ やす
竹内 正康さん

75歳

●参加歴：8回目

今後は新たな種目にもチャレンジしたい

ぎふ大会は2020年の延期、2021年の中止を経て、2025年に待望の開催となりました。

総合開会式は、時折霧雨が降るなか盛大に開催されました。式典後のインターバルでは、夏の甲子園で強豪校を倒してベスト4に進出し、県民をはじめ全国に熱い感動を与えてくれた岐阜商業高等学校の応援部、吹奏楽部の約100名もの学生らが、甲子園での熱戦や激戦を熱く盛り上げた応援シーンを再現し、大会に参加する選手に向けてエールを送ってくれました。若さあふれるエネルギーを身体全体で感じることができ、翌日からの戦いに向けて大きな力になりました。

大会期間中はあいにくの空模様でしたが、昼間は屋外の競技も支障なく行われ、無事に来年度開催の埼玉県へ大会を引き継ぐことができました。

私はソフトバレーボールのMC可茂の監督として参加しました。私とソフトバレーボールとの出会いは42歳の時。当時バレーボール協会の役員をしていた同級生から、「チームをつくるから参加しないか」と誘われたことがきっかけでした。

以来33年間、連盟に登録し、県内外の大会へ参加するなど活動を続けています。

私とねんりんピックの出会いは、50代後半の頃、他チームの先輩から、ねんりんピックで北海道へ行って楽しかったこと、メダルまであと一歩で悔しかったことなどの話を伺ったことがきっかけです。自分も60歳になったらねんりんピックに参加したいと思い、同年代の仲間に向けて声をかけてチームづくりを始めました。そして、2010年のいしかわ大会に初参加。なんと金メダルを取ることができました。これが自信につながり、メンバー全員が次も参加したいと想いを一つにしました。そして高知、山口、秋田、和歌山、神奈川・横浜・川崎・相模原、鳥取、岐阜と、これまで8回の参加につながりました。この歳になっても初めて訪れる場所がほとんどで、どの大会でも、食事、観光、人との交流など印象に残る楽しい思い出が今も鮮明に思い出されます。すっかりねんりんピックの魅力にはまってしまったようです。

これまで、金メダル5個、銀メダル2個、銅メダル1個を獲得してきましたが、年を重ねるにつれジャンプ力や体力面の限界を感じるようになってきました。今、新たな種目にもチャレンジしようと計画中です。これからも健康長寿、生涯現役を目指し、まだまだねんりんピックへの参加意欲を持ち続け頑張っていきます。



生涯現役を目指し、他の種目にも挑戦したい。



金メダルを胸に笑顔で記念撮影。(左から3番目)



東海・北陸
静岡県

2025 GIFU
NENRINPIC

マラソン

3km
(選手)

おおいし
大石 ますみさん
63歳
●参加歴：1回目

笑顔と声援に支えられ初参加で優勝を手

「ねんりんピックは盛大な大会だから、参加してみるといいよ」とマラソン仲間から紹介され、挑戦しようと思ったのが出場のきっかけです。

静岡県のねんりんピック予選会「すこやかマラソン」は、ねんりんピック前年の12月に行われます。さっそく予選会に参加し、2023年、2024年と2年連続で優勝しましたが、前回のとっとり大会は家庭の都合があり出場辞退。今回のぎふ大会で念願のねんりんピック出場にたどり着きました。

ねんりんピック初日の総合開会式は、聞いていた通りの盛大なものでした。岐阜城が見える会場で、地元の子どものたけのこ旗の応援横断幕、岐阜商業高等学校の生徒や甲冑をつけた応援団に勇気をもらい、アットホームな雰囲気とともに全国大会の良さを感じました。アトラクションの郡上踊りもボランティアの方と一緒に踊ることができ、印象に残っています。

静岡県のマラソンチームの選手の間も優しいばかりで、一緒に健康フェアなどのプ

スを回ったり、写真を撮ったり、食事をしたりと、同じ時間を過ごし、たくさんの思い出ができました。付き添いで同行していた選手の家族の方や他県の選手とも、競技の話はもちろん日頃の地域活動などの話にも花が咲き、多くの方と交流ができました。

レースは長良川の河川敷で、見通しの良いコースでしたので、同じ3kmで出場した静岡県の男性選手のオレンジ色のシューズを目標に走ることができました。折り返してからは、先にスタートした5kmの選手や黄色のゴールゲートを目指しました。周りの声援が聞こえ、集中してトップで走り切ることができました。チームの選手、浜松市の選手の皆さんにも優勝を喜んでいただき、感激もひとしおでした。

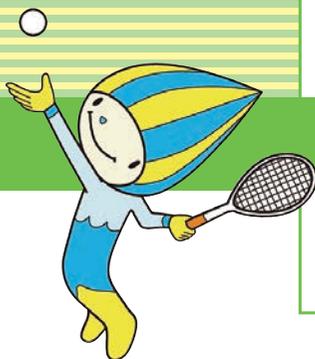
地元のボランティアの学生さんの笑顔のあいつや声援をはじめ、地元の特産品（トマト、お米、きゅうり、オレンジジュース）のおもてなしもとても美味しく、どれも印象的でした。

普段一緒に練習をしている静岡県の地元掛川市や御前崎市の方々の顔を思い浮かべながら、レース中も楽しく気持ちよく走ることができました。これも仲間や運営関係者の皆さんのおかげと感謝しています。

一緒に参加した選手の皆さんと、これからもマラソンでお会いできるよう、今後も練習に一生懸命励みたいのです。今回、ねんりんピックに初めて参加し、規模の大きさや開催地のおもてなしに感激しましたので、また参加したい気持ちでいっぱいです。



支え合った静岡県チームの仲間と一緒に。(左から3番目)



ソフトテニス

スマイル愛知
(監督兼選手)

きし いさお
岸 勲さん

64歳

●参加歴：2回目

皆で勝ち取った想定外の全国制覇

自分がソフトテニスを始めたのは、中学時代のクラブ活動でした。中学では後衛でしたが、高校からは前衛となり、インターハイを目指して汗を流しましたが、結果はあと一歩で出場できず、悔しい思い出が残っています。

社会人になってからも地域の大会に参加し、また、母校のコーチをするなど、ソフトテニスとは生涯スポーツとして関わってきました。

シニアになってからは先輩のお誘いもあって、レベルの高いクラブに参加させていただくようになり、60歳以上で参加可能なねりんピックを知りました。

ねりんピックでのソフトテニスは、混合ダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの合計3ペア6名でのチーム団体戦による競技です。初日は4チームでのリーグ戦、2日目は順位トーナメントを行います。

自分は、監督兼選手として2回目の出場にな

ります。前は3年前の神奈川・横浜・川崎・相模原大会に出場し、予選リーグは1位で通過しましたが、翌日の1位トーナメントで岐阜県に敗れ、ベスト8の成績でした。

今回、我々スマイル愛知は予選リーグを1位で通過し、翌日の1位トーナメントにおいて、熱戦を制して優勝することができました。特に決勝は開催地である岐阜県との対戦で、8月の練習試合では負けていた強敵です。完全アウェイの中でしたが、逆転勝利した準決勝からの勢いとチームワークで幸運にも勝つことができ、想定外の優勝、全国制覇という最高の結果となりました。ともに戦った良きメンバーに感謝です！

最後にスポーツ・文化の交流を目的とするねりんピックがますます繁栄し、メジャーの大会になることを祈念するとともに、今大会の準備から実施・運営に関わっていただいた多数の関係者の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



準決勝前に一致団結のスマイル愛知。(左から2番目)



表彰式後のビッグスマイル。(左から3番目)



インディアカ

このはずく
(選手)

ほり あつこ
堀 淳子 さん
62歳
● 参加歴：2回目

ナイスプレイで広がる交流とチームの絆

私は、2023年のえひめ大会に初めて参加し、今回は2回目の参加でした。メンバーは、愛知県インディアカ協会の中でそれぞれクラブに所属している5名です。「一緒に参加しませんか」との声かけに、即座に快く了解し、「出るからには優勝をするぞ!」と皆、強い意気込みで参加しました。

総合開会式が行われた長良川競技場では、全国から参加した各競技の旗手を先頭に選手団が行進し、その様子が大画面のモニターに映し出されました。それは、今から戦が始まるような圧倒感と緊張があって、とても感動しました。

交流アトラクションの郡上踊りは、その昔、浴衣を着て踊った町内の盆踊りが懐かしく思い出され、思わずメンバーとフィールドへ駆け降り、輪に入って踊りました。岐阜らしいアトラクションで印象に残りました。

インディアカ交流大会では、このメンバーで優勝できたことが何よりもうれしかったのはもちろんですが、それ以上に心に残ったのは、試合の中で、相手チームのナイスレシーブやナイスブロックに対

しても、「ナイス!」と声をかけ合い、敵味方を超えて互いを尊重し合い、温かい雰囲気の中で交流の試合ができたことです。

私のチームには、今回、高齢者賞をいただいたメンバーがいます。インディアカが大好きで、いつもはつらつとして、周りの人たちを気遣うことができる方で、私たちのお手本になっています。

インディアカは、年齢に関係なく、人と人とのつながりを深める力を持っています。自分もインディアカが上手になりたいという気持ちに加え、周りの人と一緒に楽しむ姿勢を大切にして関わり、日々の練習や、交流会へも積極的に参加して、楽しく長く続けていきたいと思います。

今回の経験も、自分を成長させてくれる大切な経験となりました。この経験をしっかりと力に変え、次回にはもっと成長した自分を発揮できるように努力をして、今回と同じメンバーで試合に挑戦したいと強く思います。



壮大なスケールで感動した開会式にて。(左)



「今日は頑張って優勝するぞ!」と意気込むこのはずくチーム。(右から2番目)



パドルテニス

チーム MIE
(監督兼選手)

いしはら やす ゆき
石原 保行さん

64 歳

● 参加歴：1 回目

ありがとう岐阜！ 心に響いたおもてなし

決勝を前に、「絶対にこちらからミスをしない」「絶対に気を緩めない」と心に強く決めて臨んだ。「強く打てていない」「相手コートにボールを置きにいつている」と思いながらも、ポイントがこちらに入り続けてずっとリードしていたので、攻める打ち方に変えなかった。最後に相手がボレーした球がサイドラインからわずかに出たとき時、私は「アウト」とはっきりと言い、「ついにやったぞ」と心の中で叫んだ。

優勝に酔いしれている時、「おめでとう」「三重を応援していた」と真っ先にコートに入り、握手したり抱擁したりして大喜びしてくれたのは、何度も対戦したことのある岐阜の選手だった。応援してくれていたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。

振り返れば約1年前に、私は、ねんりんピックに出場できると分かり、当日が大変待ち遠しかった。その間、週2回の練習に加え、ほんの短時間ではあるが、腕立てや柔軟運動、ジョギング、ふくらはぎや握力を鍛えるトレーニング、階段を1段とぼしで上がるなど、毎日のように運動した。このようなことが、結果に反映できたのかもしれない。

総合開会式やパドルテニスの開始式では濃姫の出迎えや参加型の踊りなど、岐阜独自の視点で盛大にもてなしていただいたことも、心に残る素晴らしいものであった。

予選を全勝で終えた試合初日の夜には、岐阜選手7人から誘いを受けた親睦会に、チーム MIE 全員で参加した。普段の大会ではなかなか見られない一面に触れ、仲間意識が深まった。美味しい料理を囲みなが

ら心が触れ合うひとときとなった。

試合2日目の帰りは、多治見市モザイクタイルミュージアムを見学した。これまで、その隣にある笠原体育館には大会に出るため何度か訪れていたが、今回初めて入館できたのは、ねんりんピックに参加したからこそ実現できたことである。さまざまなタイル製品を鑑賞することができた。

ねんりんピックでパドルテニス競技が導入されたのは、今回が初めてである。パドルテニスにとって記念すべき第1回大会で結果が残せたのは、うれしい限りだ。特に、何年も前からさまざまなことに尽力していただいた岐阜県パドルテニス協会のおかげである。心から感謝している。来年以降のねんりんピックでも、パドルテニス競技を開催してほしいと願う。



岐阜ならではのおもてなしが印象的だった総合開会式。(後列右端)



ソフトボール

しもむら しんや
下村 真也さん

MJクラブ
(選手)

60歳

●参加歴：1回目

楽しかったねんりんピックの思い出

ぎふ大会に参加させていただき、スタッフさんのおもてなしの心が、総合開会式からとても伝わる大会だと感じました。開会式での一番の思い出は、皆さんと一緒に岐阜伝統の踊りを踊ったことです。皆さんの仲間入りをさせてもらったような気持ちの良い空間でしたね。汗をかきながら一体感を覚え、岐阜県に来たと全身で感じた瞬間でした。伝統を体験できる開会式で良かったです。

「幸せなら手を叩こう」と皆で歌えたことも、とてもうれしく感じました。振り返れば、普段「幸せ」と口にすることは少なく、この時ばかりは声を出しながら参加しました。気分が良くなり、開会式会場の周囲に準備されていた体験コーナーでチームメイトと過ごしたり、地元食

材を食べたり、ついついお土産をたくさん購入して宅急便の手続きをしてみました。歴史上の武将になれるコーナーで、鎧や衣装を着せていただいたことも、思い出に残る瞬間でした。

いろいろな場所で、大会参加者のリラックスした表情や笑顔が目飛び込んできました。競技会場でもたくさんのブースで笑顔のおもてなしを受けました。とてもうれしかったです。大会スタッフさんの対応は心地よく、過ごしやすい安心感があり、岐阜県民の皆さんの優しい人柄が伝わってきました。雲ひとつもない青空のような印象を受けました。

また、宿泊先での食事も品数が多く、郷土料理の鮎も並んで満足でした。すみずみまで行き届いた大会でしたね。試合だけでなく、見て参加して食べることも思い出に残りました。

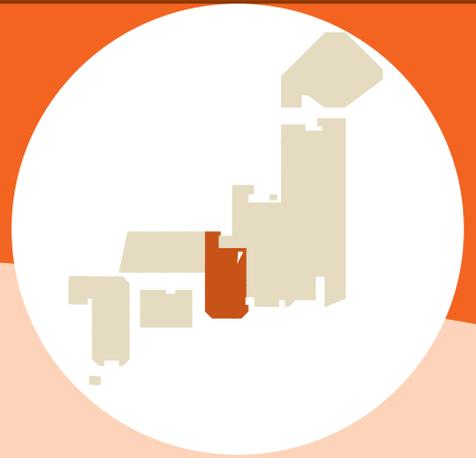
ホテルから会場までの送迎車は福井県大野市から来ていて、他県も協力体制になっていることが参加してわかりました。試合会場だけでなく、ホテルでの他県チームとの交流も生まれました。

出場に向けた練習の日々。上位進出を目指し、皆で「青春を取り戻すぞ」と声をかけ合いながら励みました。初めての大会参加となって説明会に参加し、しっかり話を聞いてチームメイトに情報発信しなければと、何度も資料を読み返した覚えがあります。私なりにまとめた資料を作成してチームメイトに配布し、ユニフォーム、健康チェック表、体調管理に気を使い、そして開会式当日があつという間にきました。自宅を5時に出発し集合場所に……振り返ればあの日の記憶がよみがえります。楽しかったです、ねんりんピック。



宿の部屋でチームメイトと。後ろには長良川が。(中央)

近畿



p.40 滋賀県

松井 伸二さん
ソフトバレーボール



p.41 滋賀県

早川 浩一さん
ディスクゴルフ



p.42 京都府

宮本 充さん
パドルテニス



p.43 京都府

上月 俊行さん
健康マーじゃん



p.44 大阪府

木下 修一さん
剣道



p.45 兵庫県

田中 秀明さん
ゴルフ



p.46 兵庫県

岩崎 真由美さん
剣道



p.47 奈良県

池原 清文さん
ソフトボール



p.48 京都市

中西 昇さん
グラウンド・ゴルフ



p.49 京都市

谷口 主嘉さん
ダンススポーツ



p.50 大阪市

東 富和さん
サッカー



p.51 堺市

渡利 立美さん
水泳





ソフトバレーボール

まつ い しん じ
松井 伸二 さん

びわこ
(監督兼選手)

70歳

● 参加歴：3回目

出会いに恵まれた3度目のねんりんピック

「なんじゃこりゃー」。正法寺の岐阜大仏を見た時の衝撃は今でも脳裏に焼きついています。ぎふ大会に出場しなければ、この出会いはなかったでしょう。

妻と私にとって、ねんりんピックは今回が3回目の出場となりました。1回目はあきた大会で、試合中に腰に激痛が走り、人生初の救急車(妻は付き添い)。その時の大館市民病院の診察券を今も持っています。2回目はえひめ大会で、フルセット、デュース、デュースの死闘の末のメダル。試合後にお互いの健闘を讃え、抱き合った静岡県臈月倶楽部の皆さんに、またお会いしたいです。

今大会では神様がどんなドラマを準備しているかわくわく・ドキドキでした。そもそも、今大会の出場権獲得にもドラマがありました。予選を全敗で終え、順位決定戦と決勝リーグ戦では下克上、下克上の連続でまさかの優勝。ねんりんピックへ行きたいという強い想いがそうさせたのでしょうか。ねんりんピックにはそんな魅力があるのです。

大会では全国の知り合いのチームとの再会や、お土産交換、地元岐阜のソフトバレーボール仲間のサプライズ応援など、うれしい出来事の連続でした。試合では、もう緊張する歳でもないのに緊張し、普段のチーム力なら十分勝てる相手にも、最後の1点が取れずに負ける試合が2試合あり、全国大会で勝つことの難しさをあらためて痛感した次第です。

ねんりんピックのもう一つの楽しみは、地元グルメと観光。妻のリクエストで、岐阜のソウルフード「冷やしたぬきそば」のお店へ。量の多さに驚き、伝票はなく、食べたものを自己申

告する会計システムにも驚きました。岐阜には嘘をつく悪い人がいない証ですね。

岐阜大仏は、冒頭の通り、とても衝撃を受けました。正面の椅子に座って大仏を眺めていると「あの時、あいつがミスしなければメダルを取れたのに……」とってしまう自分の心・器の小ささに気づかされ、嫌なことが吹っ飛び、いい思い出だけが残る大会となりました。

ねんりんピックに出場することを目標にソフトバレーボールを続け、気がつけばもう70歳。私と同じ想いのソフトバレーボール愛好家がたくさんいると思います。より多くの人にねんりんピックでしか味わえない感動を体験してほしいです。私もチャンスがあれば、また出場したいと思います。

ぎふ大会開催に携わったすべての皆様に感謝し、ねんりんピックが私たちの目標としていつまでも続くことを願います。次はどんなドラマが待っているか楽しみです。



試合前はチーム全員リラックスの表情。(本人左端、妻右端)



ディスクゴルフ

滋賀県
(選手代表)

はやかわ こういち
早川 浩一さん
63歳
● 参加歴：1回目

初出場でつかんだディスクゴルフの銀メダル

初めて参加したねんりんピックで、銀メダルを獲得しました。

ぎふ大会で数十年ぶりにディスクゴルフが公式競技に入ると聞き、ぜひ参加したいと思ったものの、当時は年齢的に参加資格がありませんでした。しかし、コロナ禍で大会が延期となったことで参加できることに。自分にとっては幸運な巡りあわせとなりました。最初は、どこから開催連絡が来るのか、どうやってエントリーするのも分からない状態でしたが、滋賀県社会福祉協議会から連絡を受け、ディスクゴルフを扱う滋賀県フライングディスク協会として選考大会の実施から選手としての行動まで、滋賀県社会福祉協議会より懇切丁寧に教えていただき大変助かりました。

目標は、県代表資格を取って大会で優勝すること。普段から近隣府県との交流大会が盛んで、全国各地で行われる公式戦にも日本各地から競技者が集まってきます。常に優勝者は日本一ということになりますが、都道府県の代表として参加するねんりんピックには重みを感じています。

ディスクゴルフとは、フライングディスク(俗にいうfrisbee)を投げてゴールに入れるまでの回数の少なさを競うゴルフと同じような競技です。適度な運動性があり、競技性や奥の深さも備えているため、飽きずに末永く楽しめるスポーツです。なかなか目に触れるチャンスがないため知らない人が多いのですが、今回のねんりんピック

をきっかけにもっと広まればいいと思っています。

コースレイアウトは大会ごとに違うため、前日に公式練習があります。総合開会式と重なっていたため時間が足らずに細かい調整ができなかったのが悔やまれますが、総合開会式はとても楽しかったです。多くの関係者やアトラクション演技者が長期にわたり検討・リハーサルを繰り返してつくり上げた式典で、見ごたえがありました。

試合は、午前中のスコアでトップと1投差の部門2位タイだったのですが、午後のラウンドが変則的な組み合わせでトップの人と一緒に周れなかったため、思うようにスコアが詰められずに逆転できませんでした。しかし、2位タイから単独2位に上がり、銀メダルを獲得しました。

目標だった優勝には届きませんでしたが、とても充実した1日でした。

ディスクゴルフは、当面ねんりんピックに採用されていませんが、機会があれば、また滋賀県代表として参加できるように、日々技を磨きながら健康的に暮らしていきたいと思っています。



練習にも気合が入る。



試合が行われた御嵩町のキャラクター・ミーモクんと記念撮影。



近畿
京都府

2025 GIFU
NENRINPIC

パドルテニス

京都ふれ愛
(選手)

みやもと みつる
宮本 充さん

73歳

● 参加歴：1回目

多くの選手と交流し有意義で楽しい時間に

10月17日から21日に、ぎふ大会に初参加しました。種目はパドルテニス。パドルテニスはアメリカ発祥テニスの縮小版スポーツです。板状のラケット（パドル）と空気圧の柔らかい硬式テニスボールを使用することで、テニスコートの約3分の1のコート（バドミントンコートとほぼ同じぐらい）でプレイすることができ、基本技術やルールがほとんど硬式テニスと同じなので、テニス経験者が親しみやすいラケットスポーツです。

我が京都ふれ愛チームは、京丹波町、南丹市のメンバーを中心とする硬式テニスの同好会から有志で構成された、男性・女性各3人のグループです。

私は大阪出身ですが、長年浜松でサラリーマン生活を続け、65歳で関西に戻り、縁あって京丹波町に移住してきた“新人京都府人”です。この3月にリーダーに誘われて初めてパドルテニスを経験し、半年後の大会を目標に月2回程度の練習に参加してきました。8月に監督にちょっとしたアクシデントがあり、参加できるかどうか心配されたこともありましたが、何とか大会に間に合い、一同一安心。

17日にいよいよねりんピック本番を迎え、京都府の選手の結団式の後、バス4台で名古屋のホテルへ。その夜は夕食会で親睦を深め、翌朝、総合開会式が行われる長良川競技場へ向かいました。全国から約1万人の選手たちが整列し、三笠宮彬子さまご来場のもと執り行われました。彬子さまのおことば、選手宣誓、きよか炬火点火と続き、式の後半はフォークダ

ンス、選手たちも参加しての郡上踊りで盛り上がり、予想を超える盛大さで感激しました。

興奮の総合開会式の後、パドルテニスの会場のある多治見のパロー文化ホールへ。開始式ではチームのメンバーの一人が高齢者賞の表彰を受けるサプライズもありました。

翌日は多治見市総合体育館で予選リーグ、次の日は決勝トーナメントと交流試合を行いました。経験6カ月の私は惨敗でしたが、多くの試合を体験できて、楽しく有意義な大会になりました。

大会中は競技だけでなく、夜の交流親睦会も楽しく、有意義な(?)情報交換ができたことは貴重な経験になりました。この年になって初めての新しい体験ができるのはうれしいことです。できれば今後も、何かの種目で参加できたらと思っています。ねりんピックはスポーツだけでなく、囲碁、俳句、健康マージャン、将棋、かるたなど文化交流大会も行われます。皆さんもぜひ、ご自分のできる種目で参加されてみてはいかがでしょうか。



総合開会式でチームメイトと一緒に記念撮影。(左から2番目)



近畿
京都府

2025 GIFU
NENRINPIC

健康マーじゃん

京都ねんりん会
(選手代表)

こうづき としゆき
上月 俊行さん

74歳

● 参加歴：2回目

健康第一で腕に磨きをかけ、また参加したい

京都府では例年5月上旬に予選会を兼ねた大会が2日間にわたり行われ、昨年度のねんりんピック参加者を除く成績上位4名がねんりんピック参加者に選出されます。私は2020年にぎふ大会の選考会にて上位で選出されましたが、コロナ禍により中止となりました。参加願望を持ちながら2023年、えひめ大会で初めてねんりんピックに参加しました。そして個人戦ブロック別で2位になりました(役満である国士無双ができました)。

今回は過去の経験を生かして団体戦&個人戦でトップを目指そうと決意を持って臨みましたが、運がなくて先リーチをかけても後リーチの方に打たれることが多々あり、親番のたびに駆け引きをし、トップを取ったり取られたりを繰り返しました。

やはり、マーじゃんは運が6割以上と言われるだけに、どのように打つか、今後に生かしていくことが大事だと思いました。京都府の他のメンバーも、初めての参加で焦って思うように打てなかったり、昨年の国民文化祭上位入賞者が実力を発揮できなかったり、初参加で体調を崩したりと、思うような結果を残すことはできませんでした。でも、他県の方と気軽に話ができて、対戦相手の川崎市の選手の方から川崎大師ののど飴をいただいたりと、良い思い出になりました。

そして今回は、ねんりんピック2回目の参加にあたり、自分自身を奮い立たせるために、京都府選手団の旗手に挑戦しました。今後の人生においても前向きに活動することが大事だと教えてくれる、良い思い出となりました。関係者の皆様に感謝しています。貴重な経験をさせて

いただき、ありがとうございました。

また、今回トップを目指しましたが、参加されていた全国の方はかなりのマーじゃん経験があり、残念ながら目標を達成することはできませんでした。今回の経験を持って、次回(埼玉県)は参加資格がありませんので、次々回(東京)のねんりんピックに照準を合わせ、日々努力していきたいと思えます。

ねんりんピックには同じ年齢層の方が参加され、いきいきと健康マーじゃんを楽しんでおられます。今回の健康マーじゃん参加者の男性最高齢は97歳、女性最高齢が87歳とお二人とも年齢を感じさせない姿を拝見し感銘を受けました。今後も健康第一で、好きな健康マーじゃんに精進していきますことを誓います。

「あした(あかるく・しゃべる・たのしく)」を目指して日々頑張っていきます。



総合開会式では京都府選手団の旗手を務め、貴重な思い出に。



近畿
大阪府

2025 GIFU
NENRINPIC

剣道

大阪府
(監督兼選手)

きのした しゅういち
木下 修一さん

70歳

●参加歴：3回目

交剣知愛の気持ちですべての人に感謝したい

4月に大阪府代表選考会で副将として選出していただき、6人のチームメイトと今回の大会に臨むこととなり、6カ月間いろいろな所で稽古や練習試合をやってきました。途中、1人のメンバーが都合により出場できなくなり、補欠なしの5人になりました。しかし、皆で励まし合い頑張ってきました。

今回、監督という大役まで仰せつかり、また大阪府選手団の旗手にも選ばれ、結団式では選手宣誓まですることとなり、緊張感を持って臨みました。

10月17日、新大阪駅からバスに乗り、前泊地の郡上市に到着、翌日には総合開会式が行われる岐阜市へ移動しました。

総合開会式の会場は、岐阜城の近くにある長良川競技場でした。総合開会式が始まり、私は旗手として大阪府の旗を掲げて誇らしい想いになりました。イベントでは郡上踊りが催され、参加している選手も輪に入って楽しそうに踊っている姿を見て、感慨深い想いになりました。会場にはいろいろなお店が出ていて、楽しい時間を過ごすことができました。

その後、私だけは皆さんと別れて、試合会場のある関市にて監督会議に参加しました。その際に、関市からたくさんのお土産をいただき感謝しております。

監督会議終了後、バスで多治見市に向かい、その夕食会場で東京代表として参加している高校の後輩と会い、大阪市代表で来られている先輩と3人で明日の健闘を誓い合いました。

そして試合当日。会場には少し緊張感が

漂っていましたが、歓迎アトラクションの可愛いチアリーディングを拝見して少し心が和みました。

さあ、試合開始。青森県代表チームと対戦、なんとか4対1で勝ち、他のチームの勝敗を見守ります。一番の強豪と思っていた岐阜Cチームはなんと北九州市チームに5対0での勝利、次に我がチームが5対0で勝っても厳しい状況でした。

次の対戦は北九州市、成績は3対0での勝利でしたが、岐阜Cチームはなんと青森県チームに5対0での勝利、万事休す、戦いは終わりました。

2勝したのに、誰も負けていないのに、決勝トーナメントには上がりませんでした。これがねんりんピックの難しさです。

しかし、3日間、本当に楽しい時間を過ごさせていただき感謝しかありません。今回お世話になった関係者の皆様、審判員、一緒に戦った大阪府チームメイト、また、お互いに応援合った大阪市、堺市チームの選手の方々、対戦相手のチームの方々、本当にありがとうございました。剣道の心、交剣知愛の気持ちを込めて感謝の意を表します。



チーム一丸となって全力を尽くした
大阪府のチームメイトとともに。(左端)



近畿
兵庫県

2025 GIFU
NENRINPIC

ゴルフ

はばたんますたーず 2025
(選手代表)

たなか ひであき
田中 秀明さん

64歳

●参加歴：2回目

名門コースで味わった喜びと悔しさ

ぎふ大会のゴルフの試合会場は岐阜関カントリー倶楽部。過去に男女プロゴルフの日本オープンや日本女子オープンなど、数々の公式戦が開催された名門コースと聞き、ぜひその舞台に立ちたいと兵庫県の予選会に参加しました。

兵庫県からの参加枠は3名で、なんとか2位となり出場が決定しほっとしていたら、1位の方が辞退されたため1位扱いになって、兵庫県チームのキャプテンに任命されてしまいました。兵庫県のねりんピック担当事務局からの連絡事項などを他のメンバーに伝えたりしなければいけないのですが、なんとか無事に役目を果たせたのではないかと、ほっとしています。

ねりんピックは土曜日に開会式があり、兵庫県選手団は金曜日に前泊して大会に臨みます。ゴルフの競技は月曜日で日程が空いてしまいますので、宿泊費用の関係で総合開会式には参加しませんでした。日曜日に長良川温泉に宿泊し、岐阜城のライトアップを眺めながらの

温泉は最高で、疲れを癒し、体調万全で大会に臨みました。

ただ、楽しみにしていた長良川の鵜飼いが、開会式の3日前に終了していたのがちょっと残念でした。全国から集まった選手たちも楽しみにしていたのではないかと思いますので、岐阜県知事様にはそのあたりの配慮をしていただければと思いました。

ゴルフの朝は早いので、朝風呂やホテルの朝食は我慢して会場に向かいました。当日は秋晴れの、まさにゴルフ日和。素晴らしいコースの中、前半は自分で言うのもなんですが、初めてのコースで2オーバーで折り返すことができ、上出来の内容でした。このままいけたらと考えていましたが、やはりゴルフは甘くありません。最後の5ホールくらいから崩れ……残念ながら目標にしていた70台では回れませんでした。

結果は、個人戦はダブルペリアで微妙な12位でしたが、はばたんますたーず 2025 は団体戦で優秀賞をいただきました。

今後はもう少しまくなって、東京大会でリベンジを誓う今日この頃です。ゴルフ場の営業の関係もあると思いますが、せっかくのねりんピックですので、ゴルフの選手も開会式に参加しやすいよう日曜日に試合を開催していただけたらと願っています。なお、写真は生真面目な県事務局の担当が、大会係員さんに注意されながら撮ってくれたもので、ゴルフ大会関係者の皆さんにはこの場をお借りして、担当者で代わりお詫び申し上げます。



さあ、頑張るぞー! (後列左端)



近畿
兵庫県

2025 GIFU
NENRINPIC

剣道

いわさき まゆみ
岩崎 真由美さん

60歳

●参加歴：1回目

兵庫県
(選手)

生涯現役 ～兵庫県初の女性剣士として出場～

ねんりんピックの剣道競技は60～64歳が3名、65～69歳が1名、70歳以上が1名の5人で構成する団体戦でした。予選は兵庫県剣道連盟主催の年齢別選手権大会時に同時開催され、今年の予選を見ていた時に知人が「他県は女子も出場されていますよ」と話していたので、今年度は出場資格年齢に達したためチャレンジしました。

予選会申し込み後、「男女混成の予選会となります」と確認のお電話をいただき(笑)、なんとか5人の出場枠に入り、控え要員の2名を加え7名でチームが結成されました。全国大会までの稽古会や他県との交流試合を通じてチームが固まっていく過程は、人の成長に年齢は関係ないことを感じさせてくれました。若かりし頃にお世話になった方、以前から見知っていてもあいさつ程度だった方、今回初めて出会った方と一生に一度のチームを組み、全国大会に臨む体験は本当に貴重でした。

兵庫県選手団バス内は和やかで、子どもの頃のバス旅行のようでした。初日のホテルは男女比の関係で他競技の方と同室となり、初めは戸惑いましたが、それぞれの競技についての意欲的な取り組みについて話ができて、パワーを感じる交流ができました。

総合開会式では、濃姫に扮する美女たちと戦国衣装の鼓笛隊に迎えられ、兵庫県旗とともに県名の入ったのぼり旗を掲げ、関ヶ原合戦を模した入場。競技開催市町村の紹介、応援大使のトーク&体操を楽しみ、その後、夏の甲子園で活躍した岐阜商業高等学校の野球部と応援団に

よるエールを受けた時、兵庫県選手団から「来年も甲子園来いよ!」とエールを返された方がいたことは、とても誇らしく思いました。そして全員参加の郡上踊りは大いに盛り上がり、会場が一つになった素晴らしい時間でした。総合開会式とはこんなにも感動し温かいものなのだと思ひ、心に沁み、良き思い出となりました。

剣道は各都道府県・政令都市68チーム(386人)が参加、そのうち女性剣士は8人でした。私は兵庫県初の女性選手として参加しましたが、大阪、岩手の女性選手は複数回参加されているとのこと。剣道の女性出場最高齢は75歳、男性は80歳超えが数名。剣道の特性として競技年齢は高いが、試合は特別なエネルギーを要するので、いつまでチャレンジできるものなのだろうと思っていましたが、今回の大会で自身の道をより明確にできました。

稽古も試合も生涯現役。ねんりんピック剣道出場者の最高齢者を目指したい。



剣道大会の会場にて兵庫県チームで記念写真。(左から3番目)



近畿
奈良県

2025 GIFU
NENRINPIC

ソフトボール

奈良フェローズ SBC
(選手)

いけはら きよふみ
池原 清文さん

69歳

●参加歴：3回目

最高の選手たちとつかんだ奇跡のベスト4

10月18日～21日に開催されたぎふ大会に、ソフトボール競技で参加しました。今まで1回戦は勝っても2回戦で負けていたので、今回の目標は2回戦突破です。

19日の競技1日目、1回戦は山口県・大内シニアと対戦。8対5で接戦をモノにして突破。2回戦は、宮城県・山元クラブと対戦。7対4でこの試合も接戦で勝利し、目標を達成しました。予定では、夜に宴会をすることになっていましたが、明日の試合があるため、お酒は控えめに。

初めて迎える2日目は、すでに目標を達成したので、楽しんでソフトボールをしようと気軽に試合に臨みました。3回戦は、大分県・佐伯城山クラブと対戦。終盤に先制しましたがすぐに同点にされました。それでも最終回に1点を取って、サヨナラ勝ちをしました。その日の準々決勝は、香川県・瀬戸大橋クラブシニアと対戦。この試合も先制しましたが、同点に追いつかれ、最終回の表には逆転されました。

今回の目標は2回戦突破だったので、この日の宿泊は予定していませんでした。試合中に選手に確認すると、ここまで来たら勝って延泊しようと全員が言ってくれました。そうすると、なんと再逆転。2試合続けてのサヨナラ勝ちをしてしまいました。

試合が終わってからが大変でした。今夜の宿泊先を探し、選手たちは会社などへの連絡で大慌てでした。この日の夜も、明日の試合のため、お酒は控えめになってしまいました。

奇跡の3日目、準決勝では福島県・DMC常磐シニアと対戦。残念ながら1対7で負けてしまいました。そのあとすぐに3位の表彰式があり、揖斐川町長から表彰状とトロフィーと記念品をいただきました。さらにオリンピックの表彰式のように選手全員に銅メダルを架けていただきました。まさに奇跡の3日目を迎え、最高の選手たちを誇りに思いました。その日のうちに帰路につきましたが、感動と興奮の中、あらためてすごいことをやったのだなと実感しました。

奈良に帰ってからも、奈良県庁への表敬訪問や、地元香芝市の市長への表敬訪問と、初めてのことばかりでした。後日あらためて慰労会を開いて、美味しいお酒を飲みたいと思います。また参加することができたら、さらに上を目指して頑張りたいと思います。

最後に、お世話になった岐阜県大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。



ベスト4に残り喜びに沸く奈良フェローズ SBC。(後列左から2人目)



グラウンド・ゴルフ

京都市
(選手代表)

なかにし のぼる
中西 昇さん

83歳

● 参加歴：2回目

仲間との絆が深まった感動の4日間

5月15日にねんりんピック岐阜京都市予選会に参加し、羽東師チーム6人がねんりんピックの京都市代表に選ばれました。大会に向けて6人で4回打ち合わせをして、プリントの配布や確認などを行いつつ、楽しみ方などの話をしました。5カ月間、長いようで短い期間でした。

10月17日、京都市選手団はバス2台に分乗し、京都駅を出発しました。ホテルでの夕食会の前に行われた決起集会では、京都市長のビデオでの祝辞から始まり、各役員の方の祝辞の後、京都市選手代表として少し緊張しながら舞台上がり決意表明を述べました。

18日、いよいよ待ちに待った開会式。会場に到着すると、人、人、人。選手の笑顔、笑顔。わくわく感がこみ上げるなか式典が始まり、国歌斉唱、三笠宮家彬子さまのごあいさつ、炬火の点火と最高の演出が続き、最後の郡上踊りでは選手も輪になって踊りを楽しみ、感動の中、開会式が終了しました。

その日の夜は、ホテル近くの料理店で明日への挑戦に向けて一献を交え、6人で盛り上がりました。

交流大会1日目、開始式が始まる頃に降り出した雨は止み、いよいよゲームのスタートです。6人で円陣を組んで、威勢よく「やるぞ、オー」と声を出し、心を一つにして士気を高めました。さすが全国から集まった代表選手、手強いと思っているうちに1ゲーム、2ゲームが終了。思ったように成績が得られず残念。昨日と同じ店で、反省会と称しつつ美味しい食事とお酒に酔

いしれて、仲間と語りました。

交流大会2日目は晴天。今日こそはと会場入りし、最後のゲームにトライするも、思ったような成績を残せず、悔しさと力のなさを痛感しました。私たちの練習場は小学校のグラウンドですが、芝生広場でのゲームはなかなか手に負えませんでした。もう一度、出場するチャンスがあれば、克服して再び挑戦したいです。

夢にまで見たねんりんピックが終わり、打ち上げでは4日間の喜びを語り合い、6人の絆がより一層深まりました。これからも良き人生の友でありたいです。この経験を力に、これからも地域社会において、私たちにできる福祉・ボランティア活動に携わってまいります。

最後に、今大会の準備から実施・運営に関わった関係者、ボランティアの皆様にご挨拶申し上げます。感動をありがとう、おもてなしをありがとう、人生の思い出をありがとう。

京都市引率役員の皆様にも4日間お世話になり、ありがとうございました。



待ちに待った感動の開会式を終えて。(前列左端)



ダンススポーツ

みやびで楽しい仲間たち
(監督兼選手)

たに ぐち かず よし
谷口 主嘉さん

71歳

● 参加歴：5回目

準優勝は「旅のしおり」のおかげ？

私たち京都市ダンススポーツチーム「みやびで楽しい仲間たち」は、チーム名が示す通り、優雅さと陽気さを兼ね備えたメンバーで構成されています。

もちろん、ねりんピックに参加する一番大きな目的は、全国の仲間たちとの親睦、つまり「美味しいものを食べ、語り合い、飲み会をして仲良くなること」に尽きます。そのため、チーム編成が決まるとすぐに、綿密な「旅のしおり」を作成したメンバーがいたことは、私たちの団結力を示す最高の証拠でしょう！

しかし、忘れてはいけないのが、全員が競技ダンサーであり、フロアに立てば真剣勝負だということです。全国から集まった190組を超える強者たちと戦うわけですから、気合が入らないはずがありません。

個人戦では、私たち京都市チームから4組が参戦し、大活躍を見せました。特に素晴らしい

結果が出たのが、ワルツの1位、タンゴの1位、チャチャチャの5位・6位、そしてルンバの4位・8位です。

決勝まで勝ち上がると、各種目合わせて24回も踊ることになるのですが、エレガントな笑顔の裏で、足腰や心臓が悲鳴を上げていたのは秘密です。そして、大会の最も盛り上がる瞬間といえば、総勢51チームが競い合う団体戦です。私たちは1次予選、2次予選、3次予選を勝ち抜き、準決勝もクリアし、ついに7チームによる決勝戦のフロアに立ちました。他のメンバーが踊っている間、応援席から送った声援は、文字通り「声が枯れてしまうほど」の大熱狂！その声援が通じたのか、なんと京都市チームは激戦の末、準優勝という栄冠を勝ち取ることができたのです。

競技後の達成感と疲労が最高潮に達した夜は、もちろん「親睦」という名の大会です。この宴会には、デモンストレーションを踊った日本チャンピオンまでお招きし、準優勝の喜びと、親睦の喜びを分かち合いました。

競技に真剣に取り組み、結果を残し、そして仲間と心底楽しむことができた、本当に楽しみまくった最高の3日間でした。今回のねりんピックで得られた「喜びを分かち合う絆」と「最高の健康状態」は、私たちがこれからも地域やダンスライフで輝き続けるための活力となります。



これから団体戦。頑張るぞ！（右から2番目）



近畿
大阪市

2025 GIFU
NENRINPIC

サッカー

大阪市選抜チーム
(選手)

あずま とみ かず
東 富和さん

64歳

● 参加歴：1 回目

人と人をつなげる「スポーツの力」を実感

私がサッカーを始めたのはJリーグが開幕した1993年で、気づけば32年になります。

先輩のすすめで選考会に挑戦し、2度目の挑戦でぎふ大会の大阪市選抜メンバーに選ばれました。ポジションはGK（ゴールキーパー）。しかし、周囲はサッカー歴50年以上の大ベテランばかりで、自分がチームの足を引っ張らないか、本当にやっつけていけるのか、不安のほうが大きかったのが正直なところでした。

そんな中、大阪市選手団結団式での選手宣誓、総合開会式での旗手という大役まで任せられ、喜びと緊張の気持ちで大会開催を楽しみに待ちました。

そして迎えた総合開会式。会場に足を踏み入れた瞬間、多くのスタッフの皆さんが丁寧に準備し、温かく迎えてくださっている姿が目飛び込んできました。さらに地元高校生たちが笑顔でさまざまな応援パフォーマンスを披露してくれ、なかでも夏の高校野球の応援再演が胸に響き、「この舞台に来られて本当に良かった」と心から思いました。

サッカー競技は2日間にわたり3チームの総

当たり戦で、どの試合も勝敗が順位に直結する緊張感のある形式です。初日に2連勝して悪くない流れでしたが、他チームの結果次第で順位が変わるため、最後まで油断できない状況が続きました。

迎えた2日目の最終戦は、大阪市選抜として4連覇のかかった大一番。プレッシャーの中でPK献上し、後半は相手に押し込まれる苦しい展開となりましたが、全員で声を掛け合い、体を張って守り切って1対1で試合終了。2勝1分けの成績と得失点差により、見事1位となり4連覇を達成しました。

優勝が決まった瞬間、仲間たちと歓声を上げ、互いの健闘を称え合った光景は今も胸に残っています。また、家族の前で良いところも見せられて良かったなど。大会を通じて、経験年数や地域を超えて生まれる「スポーツのつながりの力」を深く実感しました。

最後に、大阪市選抜の仲間、キャプテン、初心者同然の私を信じて起用してくださった監督、大阪府地域福祉推進財団事務局の皆様、そしてぎふ大会の運営関係者の皆様に心より感謝

申し上げます。来年も選出していただけるよう、さらに精進していきたいと思っております。



声を掛け合い全員で金メダルを勝ち取った大阪市選抜チーム。(後列右端)

水 泳

わたり たつ み
渡利 立美さん

86歳

● 参加歴：18回目

背泳ぎ 25m、50m
(選手)

元気に泳ぐ姿を、大人になった孫に見せたい

ねんりんピックの出場は2002年のふくしま大会から始まりました。今回の大会で18回目の出場となります。今年の水泳競技で高齢者賞もいただきました。

水泳は子どもの頃から習っていて、子育てが一段落した55歳の時に再開し、もう30年になります。子どもの頃から泳ぐことが大好きで、現在は身体の痛みを感じても、水に入ったらその痛みも忘れるほどです。医師にも「水泳が治療につながっているのであれば、病院通いよりも水泳を続けたほうがいいね」と言われます。マスターズや世界大会にも出場し、ハワイにも競技で4回行きました。

最近では週4日、1回2km泳いでいます。クロールや個人メドレー（4種目）を泳いでいた時期もありますが、現在は背泳ぎを専門にしています。ターンがあまり得意ではないので、短水路のプールよりも長水路のほうが良い記録が出ます。直近では、2025年12月に和歌山県で開催された「秋葉山マスターズ水泳競技大会」に出場し、100mで2:05.84の記録が出ました！

ねんりんピックの出場はいつも楽しみにしています。全国の選手の方と友だちになったり交流することができ、また他の選手の泳ぎを見ることで自分も刺激を受け、まだまだ頑張ろうと思えます。いつも試合後は延泊をして、周辺の観光をすることも出場する楽しみの一つです。関西から遠方の地域でも、ねんりんピックの出場に

よって観光することができ、その地域を知るきっかけにもなります。

今回のぎふ大会で特に思い出に残ったのは、総合開会式を観覧席で観るだけではなく、グラウンドに降りてみんなで郡上踊りに参加できたことです。今までのねんりんピックにはない総合開会式で、とても楽しかったです。企画してくださった岐阜県や関係者の皆さん、ありがとうございました！

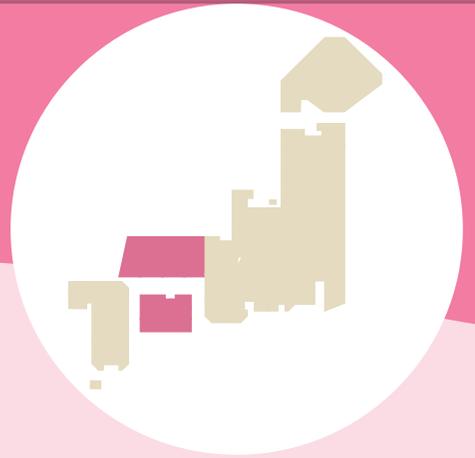
子どもや孫が東京に住んでいるので、次の埼玉大会、3年後の東京大会に出場することが、まずは直近の目標です！幼児の頃「おばあちゃんのプールは大きいね！」とびっくりしていた孫もすっかり大人になりました。その孫に元気で泳いでいる勇姿を見てもらいたいです！

水泳は私の人生において生きがいの一つで、楽しい時間です。これからもまだまだ続けて、健康を維持したいと思います。



優勝の賞状を胸に、堺市選手団のメンバーと。(前列右端)

中国・四国



p.54 鳥取県

山田 丞二さん
ダンススポーツ



p.55 島根県

前田 克美さん
ソフトバレーボール



p.56 島根県

峰谷 茂さん
将棋



p.57 山口県

藤 清隆さん
サッカー



p.58 山口県

吉田 真純さん
水泳



p.59 徳島県

松田 政直さん
ソフトボール



p.60 徳島県

江淵 豊幸さん
グラウンド・ゴルフ



p.61 香川県

大西 小波さん
バウンドテニス



p.62 香川県

名瀬 文雄さん
ソフトバレーボール



p.63 高知県

弘瀬 佳代さん
水泳



p.64 高知県

明神 良房さん
マラソン



p.65 広島市

柿本 雅之さん
将棋





ダンススポーツ

鳥取県ダンススポーツチーム
(監督兼選手)やま だ じょう じ
山田 丞二さん

66歳

● 参加歴：3回目

清流に輝け 全国に広げようダンスの長寿の輪

とっとり大会「咲かせよう 砂丘に長寿と笑みの花」からのバトンを受けて、ぎふ大会「清流に輝け ひろがれ 長寿の輪」に参加しました。

大会前から「清流」という言葉が気に入り、長野県から流れる木曾川、岐阜県西部を流れる掛斐川、そして大日ヶ岳を源流とし伊勢湾へ注ぐ長良川に思いを馳せました。ダンススポーツ大会はその長良川の先にある高山市で開催されました。

選手全員で、鳥取から大阪・名古屋を経由し、長良川沿いをレンタカーで高山市へ向かいました。途中、岐阜市や関市を過ぎる頃には気温も下がり、日本アルプスの中心に登っていくような感覚を覚えました。高山市は歴史と伝統の町で、散策スポットとなっている古い町並みでは多くの外国人観光客を見かけ、国際的な観光都市であることを実感しました。

開始式では副市長のあいさつとともに、全国各地から集まったダンススポーツの選手が飛騨高山

ビッグアリーナに集合しました。会場にはボランティアの方々や、伝統工芸・飛騨牛・高山ラーメンののぼりが並び、市民の温かいおもてなしが感じられました。キラキラした水面に住む妖精キャラクターや、世代を超えた絆を象徴するシンボルマークが印象的でした。

競技は宮本侑信さんの華やかなデモンストレーションから始まりました。個人戦・チーム戦ともに熱気に包まれ、ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャチャの各種目で、日頃の練習の成果を存分に楽しく発揮できました。また、鳥取県社会福祉協議会の方々が2階席から大きな声援を送ってくださり、力強い応援に勇気をもらいました。会場は清潔で運営もスムーズ、安心して、楽しく競技に集中できました。

シニアの交流・健康・長寿をテーマとしたこの大会は、日本を元気にする素晴らしいイベントでした。

帰りには高山ラーメンをお土産に購入しました。細めのちぢれ麺に、鰹や魚介の香る和風だしが絶妙で、とても美味しかったです。

ねんりんピックの「健康の輪」も、この高山ラーメンのように細く長く、そして清流のように清らかに全国へ広がっていくことを願っています。

最後に岐阜県民の皆さん、ボランティア、そしてご協賛いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。とても楽しい大会でした。



笑顔があふれる鳥取県ダンススポーツチーム。
(右から2番目)



ソフトバレーボール

まえ だ かつ み
前田 克美さん

64歳

● 参加歴：2回目

OKI愛LAND
(選手)

憧れのねんりんピックで広がった交流の輪

33歳からソフトバレーボールを始め、50代後半になった頃、先輩たちから「ねんりんピックは楽しいよ。特に総合開会式は最高だよ」と聞き、一度は参加してみたいと思うようになりました。

2021年のぎふ大会は予選がなく、県推薦で参加できることになり、島根県選手団のユニフォームの採寸までしましたが、新型コロナウイルスの影響で開催中止となりました。チームで岐阜の観光ガイドブックまで購入し、みんなで楽しみにしていたので、とても残念でした。

翌年の神奈川・横浜・川崎・相模原大会は開催され、ようやく念願のねんりんピックに参加できましたが、まだコロナの影響が強く、総合開会式は一部の競技だけが参加できる形でした。

そうしているうちに、「また岐阜でねんりんピックがあるよ」と聞き、次こそは絶対に行きたいという想いが強くなっていきました。

島根県予選は、行きたい気持ちが強い分、緊張しました。全試合がフルセットという過酷な戦いになりましたが、なんとか優勝し、ぎふ大会に参加できることになりました。コロナも5類感染症へ移行し、選手団全員が参加できる総合開会式は本当に素晴らしいものでした。天気も最後までなんとかもち、自由参加の郡上踊りでは、地元ボランティアの学生さんと一体感を味わい、最高の時間になりました。



決まった！勝った！バンザイ！（左端）

試合のほうは、初日に栃木・富山・島根の3チームで総当たりの予選リーグを行いました。島根県予選と同様にすべてフルセットの接戦でしたが、なんとか勝ち切り、1位グループへ進むことができました。予選で戦った栃木のタカクラブさんとは同じホテルに宿泊していたこともあり、とても仲良くなりました。LINEも交換し、「また会いましょう」と交流の輪が広がりました。

来年の埼玉大会ではソフトバレーボール競技は開催されないようなので、別の競技にチャレンジして総合開会式に参加するのもいいかな、と考えています（笑）。

最後に、大会を支えてくださったボランティアの皆さん、そして応援に来てくださった島根県社会福祉協議会の皆さんに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



表彰式の後、銅メダルを首にかけてチームメイトと。（左端）



将棋

出雲のイナズマ
(選手)

みね たに しげる
峰谷 茂さん

70歳

●参加歴：3回目

さらなる将棋の普及を目指したい

私は10年前に公益社団法人日本将棋連盟公認の将棋指導員資格を取得し、自宅近くの公民館で月2回、ボランティアによる将棋教室を開催しています。教室には、今回のねりんピック代表の相方をはじめ、同じく将棋を愛する数名の方に協力いただき、指導のお手伝いをしてもらっています。

教室を開くきっかけとなったのは、出雲市出身の女流棋士・福間香奈女流六冠が10代の頃から努力を重ねる姿を見て、「地元の将棋ファンを増やし、盛り上げたい」と思ったからです。私が福間香奈さんのファンになってから20年近くになりますが、現在もメール友だちの一人としてお付き合いいただいています。

今回のねりんピックの将棋チーム名「出雲のイナズマ」は、福間香奈さんの代名詞にちなんで名づけました。また、チーム紹介コメント

では、「島根県の誇る福間香奈女流棋士の座右の銘は『好きな道なら楽しく歩け』です。島根県チームも、好きな将棋を楽しく対局していきます」とメッセージを添えました。

大会初日の団体戦は、残念ながら予選敗退となりましたが、2日目の個人戦ではすべての対局を楽しく指すことができ、4戦全勝の優勝という望外の喜びを得ることができました。

現在の将棋教室には、小・中・高校生が30人前後、70代までの大人の方が20人前後と、多くの参加者が集まり盛況です。これは福間香奈さんや藤井聡太六冠の活躍による影響も大きいと感じています。また、教室では二つの普及目標を掲げています。

一つ目は「子どもたちへの普及」です。子どもたちには棋力向上だけでなく、対局マナーの指導にも力を入れています。将棋を通じて集中力や忍耐力を養い、一つのことを続ける大切さを学んでほしいと願っています。

二つ目は「高齢者の方への普及」です。ねりんピックの島根県の予選大会では、出場最年長(90歳)の方が「頭と手先を使う将棋は脳の体操になり、ボケ防止にも良い。仲間との対局や大会に出場することは楽しいので、できる限り長く続けたい」と話しておられました。まさにその通りだと思います。高齢者の方にも気軽に参加いただける環境づくりに努め、島根県予選の参加者増にもつなげたいと考えています。

これからも将棋教室の継続を社会貢献の一つとして、生きがいを持って取り組んでいきたいと思っています。



団体戦でともに戦った出雲のイナズマチーム。(左端)



中国・四国
山口県

2025 GIFU
NENRINPIC

サッカー

ブラック・ダイヤモンドズ 60
(監督)

ふじ きよ たか
藤 清隆さん
69歳
●参加歴：5回目

生涯現役プレイヤーを目指して

初めてねんりんピックに参加したのは60歳の時、やまぐち大会でした。今回のぎふ大会で、5回目の出場となります。

山口県では、シニアO-60サッカー大会のリーグ戦で優勝したチームがねんりんピックに出場していました。しかし、ねんりんピックの趣旨を考えると、一部の人たちが参加するのではなく、全員に権利があると考えて、私の提案で数年前から輪番制を導入し、現在は6チームで運用中です。今大会はブラック・ダイヤモンドズ60の選手を主に、他のチームからの有志を加えて構成されたチームが出場しました。

山口県選手団100名は山口から新幹線で名古屋に到着後、バスでワシントンR&Bホテル名古屋栄東へ。道中で名古屋城の天守が光り輝いて見え、明日の開会式が楽しみになりました。その夜はパーティールームで結団式・懇親会が行われました。

翌日は総合開会式会場の長良川競技場で式典が行われ、選手団と旗手は一斉行進。私は団旗を持つ大役を任せられ、無事に終えてホッとしました。その後、アトラクションなどが行わ

れ、小雨が降るなか、選手団は各交流大会に向けてバスで宿泊先に向かい、監督は代表者会議場のある飛騨市文化交流センターへ。特別表彰式、開催要領、競技運営上の説明があり、参加人数約1100人に及ぶサッカー競技が明日から始まることを実感しました。

その日は岐阜北部の高山市内のホテルに宿泊し、夕食は近くの串の三百両という居酒屋で「暴飲暴食」をして、翌日の試合に向けて夜遅くまで語り合いました。

試合当日は小雨も上がり、絶好のサッカー日和。ホテル周辺を友人と散歩したあと、朝食を堪能して試合会場に向かいました。初日は2敗という結果でしたが、フィールドの外ではチームの誰もが和気あいあいと場を盛り上げる人たちがばかりでうれしく、明日への活力となって、夜は前日と同じ居酒屋に向かいました。

2日目は惜しくも引き分けでしたが、ボランティアや高校生からもらったトマトやりんごジュースを美味しくいただきました。試合の結果は2敗1分けで、ブロック優勝にはほど遠い成績となりましたが、次回開催地の埼玉県でのリベンジを祈りたいと思います。

これまで多くのことを続けてこられたのも、家族の協力があったからこそで、とても感謝しています。これからも体力が続く限り、頑張っていきたいと思います。



山口県選手団を代表し、旗手として参加。



最後まで走り抜いた選手たちに拍手！
(後列右から6番目)

水 泳

よしだ ますみ
吉田 眞純さん

70歳

● 参加歴：3回目

バタフライ 50m、25m
(監督兼選手)

どん底から復活し、金メダルを獲得

ぎふ大会は、私にとっては3回目のねりんピックとなりました。

全国各地から集った多くの選手が日々の練習成果を発揮するとともに、競技仲間や地元の方々、他チームの選手との交流を通じて、たくさんの思い出が心に刻まれたと思います。

今回は、監督兼選手での大会参加となりました。監督としての大役は多岐にわたり多忙でしたが、充実した時間であり、良い経験となりました。特に山口県社会福祉協議会の女性職員、立石さんには最初から最後まで連絡、相談に乗っていただき大変助かりました。おかげさまでチームを統括し、指導、管理することができました。本当にありがとうございました。

私の水泳歴は50年で、長年にわたり水泳を続けて健康維持や体力向上ができ、健康面には自信がありました。しかし、昨年7月にプールで泳いでいたところ、急に胸の痛みがあり、圧迫感を感じました。家に帰って、安静時にも胸

の痛みがあり「おかしい」と感じてすぐに病院に行きました。診察してもらうと、心臓の冠動脈が動脈硬化により狭くなり、血液が流れにくくなっている狭心症と診断され、その日に入院、治療を行いました。それから年明けまで運動はドクターストップで治療に専念し、病状の安定を目指しました。

年明けから病状が安定し、泳ぎ始めましたが、体力が落ちて泳げなくなっていたので、どん底状態でした。元の体力に戻すために水泳を本格的にやり、ねりんピック出場を目指そうと決めました。今回のねりんピック出場は、あきらめずに水泳を続けてきたことへのご褒美だと思っています。

さて、肝心の競技結果は、努力の甲斐あって25m、50mバタフライで優勝しました。

やはりメダル獲得はうれしいものですね。他のメンバーも銀、銅メダルを獲得して喜んでいました。

最後に、今大会の準備から実施、運営に関わった関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



大健闘した山口県チームの4人。(右端)



25m、50mバタフライで念願の優勝。



中国・四国
徳島県

2025 GIFU
NENRINPIC

ソフトボール

まつだ まさなお
松田 政直さん

79歳

●参加歴：1回目

板野体協シニア
(監督兼選手)

ねんりんピック初参加で得た体験

私たち板野体協シニアは、現在15名で活動をしています。球史は古く、私も監督となって約10年になりますが、ねんりんピックは初出場です。

徳島県はソフトボールに関してはレベルが高く、数年前にねんりんピックで優勝した鳴門クラブ、また昨年のとっとり大会に参加した藍住GMなどがあります。しかし、県予選会では両チームと対戦せず、私たちが優勝することができたのです。ぎふ大会への参加が決まってからは、大会に向けて選手の皆さんも練習に熱が入りました。

いよいよ、ぎふ大会に向けて、地元の板野町を朝8時に出発しました。

私は、監督としてその日の監督者会議に出席したところ、4名の高齢者の方が表彰されました。私も来年は80歳、まだ頑張れると励みになりました。会議が終わり、チームの皆さんと試合会場を見学しました。関係者の皆さんが私たちのために雨降りの中で準備をしてくれ

ていました。そのおかげで、次の日は試合ができました。本当にありがとうございました。

私は、「まず1勝」を目標にして、選手の皆さんと誓い合いました。その結果、第1回戦では、運良く横浜市の横浜神泉クラブさんに勝つことができました。そして、次の第2回戦では愛知県の稲沢ゴールドさんに負けましたが、目標の1勝を達成したことは、チームにとって今後の励みになると思います。

誌面をお借りして御礼を申し上げたいのですが、選手が試合中に足を負傷した際に、看護係の皆さんに温かい手当てを受け、次の日はうまく歩行することができました。本当にありがとうございました。

岐阜での楽しい思い出づくりから、大会の成功、素晴らしいご接待まで、ご尽力いただきました大会関係者、運営スタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、ありがとうございました。

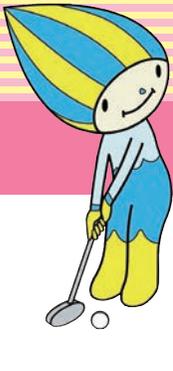
また、この大会に出場したいと思っています。関係者の皆さん、よろしくお願ひします。



試合前にキャッチボールで肩慣らし。(左)



目標だった1勝を達成し、笑顔で記念撮影。(前列左から3番目)



グラウンド・ゴルフ

え ぶち とよ ゆき
江 淵 豊 幸 さん

76 歳

● 参加歴：2 回目

徳島県
(選手代表)

県外選手との親交を深めた交流大会

徳島県からグラウンド・ゴルフ交流大会に、男子3名、女子3名、合計6名の選手で参加しました。その中には、前々回のえひめ大会の参加選手が3名含まれています。

10月17日、午前10時30分から、徳島県庁11階の講堂で、ぎふ大会の徳島県選手団結団式が行われ、徳島県知事より県旗が授与されて激励の言葉を受けました。県庁食堂での昼食後、選手団は12時過ぎに貸し切りバスで岐阜県へ出発しました。

その日の夜は、徳島県選手団の交流会が開催され、各競技参加チームの自己紹介があり、各チームから上位入賞を目指す決意表明が行われました。

総合開会式当日は曇り空の中で式典が行われました。交流アトラクション前半は、岐阜県内各地の競技開催市町村の映像スライドを交えての紹介、また、県内高校生たちによる選手に向

けた応援がありました。後半は地元の郡上踊り、フォークダンスなどで盛り上がり、全国の選手の皆さんとの交流を楽しみました。

グラウンド・ゴルフ交流大会の競技会場は晴天に恵まれ、天然芝コースと人工芝コースの2面で競技が行われました。どのコースも難所ばかりで、なかなか難しいコースでした。特に天然芝コースは、徳島で練習を行ったことがなく、参加者6名全員が初めてなもので大変苦労しました。

大会期間中は、ゲームの間に県外選手と意見交換を行うなど交流を深め、大変楽しい2日間のグラウンド・ゴルフ大会でした。

帰りは、新幹線・高速バスを乗り継いで、無事に徳島に帰って来ました。

お世話してくださったとくしま“あい”ランド推進協議会の皆様をはじめ、大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。



総合開会式の終了後、選手全員で健闘を誓い合う。(左から2番目)



全力でプレイした競技会場にて。(後列左端)



バウンドテニス

ウドンテス讃岐
(監督兼選手)

おおにし さなみ
大西 小波さん

68歳

●参加歴：3回目

思いを一つに、感動の2連覇を達成！

私たちなんと、2連覇しちゃいました！

メンバー6名、思ってもいなかった2連覇にビックリするやら喜ぶやら、感激の涙までこぼれるほどでした。

ぎふ大会の参加メンバーに選ばれた際に、香川県バウンドテニス協会の方々から「2連覇を目指して頑張ってきてください」と応援されました。でも、そんなの無理です……、今年の優勝は運が良かっただけですと、本当にそう思っていました。試合は楽しんで、美味しいものを食べて、岐阜県の観光を楽しもうと考えていました。

小雨の降るなか行われた総合開会式。実際に参加することで、ねんりんピックに来ているんだと実感しました。地元の皆さんの心遣いや、おもてなしにも感激しました。

競技1日目の予選。強者ぞろいの厳しい試合ばかりの中で、私たちが心がけたのは、一球一球、気持ちを切らさずに精一杯ボールを追うこと。チームの仲間たちも、それぞれの姿に自分を重ね、全員でボールを追いかけてきました。試合中は全員で声をかけ合い、心をつ一つにして戦いました。何とか予選を1位で突破し、明日も頑張ろうと声をかけ合いました。

2日目の決勝トーナメントも、厳しい試合になるのはわかっていました。どのチームも予選を1位で勝ち上がってきたチームばかりです。苦戦しながらも、私たちは決勝戦まで勝ち上がることができました。

決勝戦も最後まで一進一退の展開でした。試合をする選手は全力でプレイし、他のメンバーは応援の声に力を込めました。声援が少しでも力になり、選手に届くようにと気持ちを込めました。

この6名でぎふ大会に参加できて良かった！そしてありがとう！



チームカードを持って記念撮影。(右から3番目)



2連覇を達成し、歓喜の表彰式を終えて。(前列中央)



ソフトバレーボール

川島体協 ALPHA
(監督兼選手)

な ぶち ふみ お
名 淵 文 雄 さん
65 歳
● 参加歴：2 回目

まだまだこれから！ 人生は長い

ぎふ大会には、一昨年のえひめ大会に続き 2 年ぶり 2 度目、連覇をかけての出場でした。前大会から 2 つの年を重ね、チームの平均年齢は 66 歳。少しの不安を感じながらも、それ以上に大きな期待を抱きながらの挑戦でした。

ソフトバレーボール競技は男女各 2 名の 4 名、コートのはさはバドミントンダブルスと同じで、ネットの高さは 2 m です。60 代にとっては少し高めではありますが、さすがに全国大会、長身で身体能力が高く経験豊かな選手がたくさんおられ、どこのチームも個性的で魅力的、強豪チームばかりです。そんな皆さんとの対戦でしたが、ドタバタしながらも初日の予選は運も味方につけて 2 連勝、ブロック 1 位通過。幸先の良いスタートが切れました。とりあえず、前回は優勝ただけに全員で安堵の一夜を過ごすことができました。

2 日目は、いよいよ優勝を目指しての戦いです。ここまで来るとプレッシャーとの戦いも相当なものです。厳しい場面が多くありましたが、チーム一丸となって必死で頑張り、なんとか 1 回戦をクリア、決勝戦に駒を進められました。しかし、残念ながら今回はここまで。力尽きて惜しくも第 2 位、銀メダルという結果になりました。

少し悔しさはありますが、楽しみは次の機会に大切にとっておくことにしましょう。それよりも、対戦を通して新たな戦術や驚かされる発想など、数多くのものを体感することができて大きな刺激を受けました。これらの体験は私たちにとって素晴らしいエネルギーとなり、新たな活力と希望、勇気を与えてくれるはず。 「まだまだ、これから！ 人生は長い」という気

持ちにさせてくれるわけですね。

これからもスポーツを通し、心身ともに健康でいられることに感謝し、さらなる期待を胸に日々新しいものを探しながら、みんなで仲良くポジティブに、アグレッシブに頑張っていけたらと思っています。

大会では、懐かしい他県の選手の方々との再会を楽しんだり、新しい出会いが始まったりもします。人生において本当に貴重な心の財産となります。大変ありがたいことですよね。

最後になりましたが、このような大会を開催していただき、関係者の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。あわせて、チームの皆様、全国のソフトバレーボール愛好者の皆様にも、深く御礼を申し上げます。では、またいつの日か、どこかで元気にお会いしましょう。



表彰式後にチーム全員で記念写真。(後列左端)

水 泳

ひろ せ か よ
弘瀬 佳代さん

75歳

● 参加歴：5回目

平泳ぎ 50 m、バタフライ 25 m、
混合メドレーリレー
(選手代表)

金メダルまで15年 —師匠と仲間に感謝を—

ネパールのランタン谷で、標高4000メートルに咲く幻の花・ブルーポピーを見に行く—。そんな夢を叶えるため、53歳の時に心肺機能を鍛えようと初めてプールに足を運びました。そこで偶然、水泳を教えていたのが都築先生でした。私は全く泳げなかったので、「泳げんけど、入ってかまんろうか？」と恐る恐る声をかけたのが、すべての始まりでした。

面倒見が良く、しかし妥協を許さない先生の指導のもと、私は一から泳ぎを学びました。健康のために始めた小さな挑戦が、15年後のねんりんピックで金メダルという大きな喜びをもたらすとは、その時は想像もしていませんでした。

水泳を始めて6年が経ち、少し自信がついた頃、先生にすすめられてねんりんピックへの挑戦を決意しました。しかし結果は入賞にも届かず、悔しさだけが残りました。それでも、いつか必ず金メダルを取ると心に誓いました。

ところが、突然の悲報が私たちを襲います。7年前、都築先生が水泳中に急逝されたのです。その場にいた私は、現実を受け止めきれず、悲しみと喪失感に押しつぶされそうでした。しかし残された仲間と話し合い、「しばてん」という水泳サークルを結成。週2回の練習と自主練を重ね、

私たちは先生の教えを胸に泳ぎ続けました。

私は水を掴む「キャッチ」が苦手なため、ならば「キックで勝負」と心に決めました。もともと山登りが好きで、近くの山を愛犬とともに年間300日以上登っていました。自然を楽しむその時間が、知らず知らずのうちに脚力を鍛えてくれていたのです。

そして迎えた今年のねんりんピック。バスの休憩所で偶然出会った鳥取の選手と意気投合し、鳴子とハンカチを交換する心温まる交流がありました。表彰式で私の名前が呼ばれ、表彰台に上がると、客席のどこからかカチャカチャと鳴子の音が。顔を上げると、その鳥取の方が鳴子を振って応援してくれていました。本当にうれしく、表彰台からの最高の眺めを堪能しました。

大会後には、さらに驚くできごとがありました。栃木県の方が、16年前の北海道でのねんりんピックで撮影された都築先生の写真を、わざわざ私に届けてくださったのです。今年は先生の7回忌。「コーチが、ずっと見守ってくれゆうがやね」と思わず呟きました。

山を愛し、水を愛し、人を愛してここまで来られたこと。そして支えてくれた仲間と、温かく応援してくださる多くの方々に、心から感謝しています。都築先生、見ちゆうかえ—私はやったでえ。

大会キャラクターのミナモちゃん
と金メダルを手に記念撮影。



中国・四国
高知県

2025 GIFU
NENRINPIC

マラソン

3km
(選手代表)

みょうじん よし ふさ
明神 良房さん
64歳
●参加歴：2回目

たくさんのおもてなしの心との出会い

ねんりんピックは2年前のえひめ大会に続いて2回目の参加でした。他県の選手との再会を楽しみに参加しました。

私は定年退職後、再雇用で会社勤務をしていましたが、体調を崩したことから退職し、もう一度陸上競技にチャレンジしたい、走れるうちにどこまでできるか頑張ってみたいと思い、陸上競技に再チャレンジすることとしました。

そして、ねんりんピックの高知県選考会に参加し、本大会を目指すことにしました。すると、ランニングフォームが悪いことに気づき、現在も改善に努めながら練習に励んでいます。高齢になっても陸上競技ができ、さらに進化しようと取り組んでいる自分のこれからが楽しみです。

今大会においては、「おもてなし」の行動に多数触れることができ、感動しました。バスで会場に着くと、スタッフさんの元気なあいさつがうれしく、また、ゴミ箱の位置を尋ねると「お預かりします」と受け取ってくれました。

マラソンコースは長良川沿いの平坦で直線が多く、今までに走ったことのない良いコースでした。また、ゴミが全くなくコースがきれいなことに感動しました。今回は入賞者8位までにメダルがあり、入賞者全員喜んでいました。

高知県チームは、6人全員がそれぞれのペースで、笑顔でゴールすることを目標にスタートしました。結果、私は60～69歳3km男子の部で逆

転優勝、その他にも高知県チームは優勝1名、入賞2名と大活躍でした。

全国から集まった選手の皆さんとランニングの話をしながらか親睦を深めることができ、高齢でもランニング仲間が多くいることをあらためて確認しました。ねんりんピックで全国の仲間たちと一緒に走れる喜びは、この大会でしか経験できません。

今後も、ねんりんピックが多くの高齢者が目標とし参加できる大会でありますよう心から願っております。

私も微力ではありますが、高知県内のランニング仲間にねんりんピックの素晴らしさを伝えるとともに、高知県選考会から声掛けを行って多くの方が参加し、ねんりんピックを目標に頑張る選手が出てくるよう選考会を盛り上げていきたいと考えております。

今回も良い経験をさせていただきありがとうございました。



笑顔のゴールを約束し合った高知県チーム。(右から2番目)



中国・四国
広島市

2025 GIFU
NENRINPIC

将棋

広島市
(選手代表)

かきもと まさゆき
柿本 雅之さん

60歳

●参加歴：1回目

ねんリンピック初参加で金メダルを獲得

岐阜羽鳥駅の改札を抜けると、高校生から大声援を受けた。開会式会場では中学生にエスコートしてもらい、将棋会場では昼食時に、栗きんとんなどの名産品を女子中学生が全員に配っていた。これがねんりんピックのおもてなしなのか。歓迎されるのは気分が良かった。

数年前からねんりんピック将棋交流大会がどういう大会なのか研究を始めた。まず3人で1チームの団体戦であること。予選は4チーム総当たりで1位のみ16チームの決勝トーナメントに進出できること。予選落ちした場合は個人戦にまわることがわかった。

仮に私が予選で3連勝しても、1試合でもチームが1勝2敗で負けると予選落ちとなるので、なかなか出場への踏ん切りがつかなかった。そこで、思い切って大学の恩師などへの年賀状に、今年で60歳になるのでねんりんピック将棋部門に参加する旨を書いた。こうなると出場しない訳にはいかなかった。

総合開会式の会場からは岐阜城が見えた。戦国ものを読むと度々出てくるお城だ。織田信長が見ていた風景をぜひとも見てみたくなった。昼食後からバスの時間まで2時間あまり。タクシーを捕まえるのに30分かかったり、10分おきのロープウェイが乗る手前で満席になったりしたが、なんとか岐阜城に到着。濃尾平野が360度見渡せて、信長気分が味わえた。1時間半でバス乗り場に帰還し、代表者会議に遅刻せずにすんだ。

さて、翌朝からいよいよ予選リーグ3試合だ。初戦は埼玉県。ここが最大の勝負どころと3人とも認識していた。私の対戦相手は、今年、

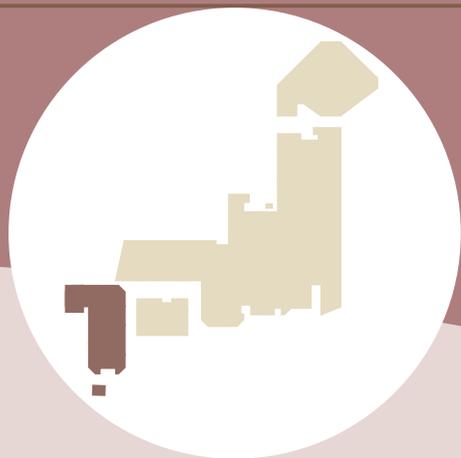
一般大会で決勝まで進んだとさり気なく強さをアピールするツワモノ。序盤は押されていたが徐々に挽回し、終盤は勝勢になったので横を見ると、すでに2人とも負けていた。恐れていたことが起こっていた。結局、チームは1勝2敗で敗戦。残り2戦は勝つも、2勝1敗で予選落ち。埼玉県が3連勝で予選突破し、決勝トーナメントでも全国3位の好成績を残した。

翌日は予選落ちしたので個人戦にまわる。全国的な強豪は皆、団体戦の決勝トーナメントのほうに行っていたので、割と楽に4連勝し、金メダルを獲得した。大会の合間には、20年振りに会う人や懐かしい人たちとの交流があり、貴重な時間が過ごせた。ホテルは夕食なしとしていたので毎晩、飛騨牛などの名産品を食べ歩いた。コロナ禍以降、他県に行くことがほとんどなかったので、4泊5日の岐阜の旅は久しぶりに刺激があり楽しむことができた。



個人戦の金メダルの賞状を笑顔で受け取った。

九州・沖縄



p.68 長崎県

角田 瑞枝さん
グラウンド・ゴルフ



p.69 熊本県

竹下 精一さん
ペタンク



p.70 熊本県

中野 順子さん
マラソン



p.71 大分県

堀 正和さん
テニス



p.72 大分県

石井 とも子さん
ペタンク



p.73 宮崎県

黒木 豊さん
ゲートボール





グラウンド・ゴルフ

すみだ みづえ
角田 瑞枝さん

福江ナイスイン
(選手)

72歳

● 参加歴：2回目

健康長寿でナイスイン！さらなる挑戦へ

私が住んでいるのは、長崎県の離島・五島列島の福江島です。愛する福江ナイスインクラブには、26名の元気な仲間が在籍し、週に4日楽しく活動しています。その中の6名が、ぎふ大会に参加する機会を得て、貴重な体験と思い出づくりができました。

総合開会式では、夏の甲子園で快進撃を見せた県立岐阜商業高校の野球部をはじめ、若者からの応援など、心のこもった多彩なアトラクションのおもてなしを受けました。後半の選手団をまきこんでの郡上踊りには、私たちも女性4人で参加して大いに楽しむことができました。

グラウンド・ゴルフ大会会場の笠松町では、地域の皆様手作りの美味しい鍋料理がふるまわれ、2日間とも、心もお腹も満腹になりました。ありがとうございます。肝心のプレイにおいては、芝でのプレイ経験がなく、特に天然芝では球がなかなか届かずに苦戦を強いられま

した。しかし、同伴プレイヤーの皆様方と励まし合い、賞賛し合いながら、和やかに無事2日間を終えることができました。自分の実力はさておき、「参加することに意義がある」は、なかなか名言だなあと納得したものです。

グラウンド・ゴルフ会場での閉会式では、最高齢者、高齢者表彰を受賞された皆様方のお元気に感動の連続でした。全員背すじがピンと伸びて、階段の昇降も軽やかで、とても90歳以上とは思えませんでした。健康の秘訣は美しい姿勢からと、あらためて気づかせてもらいました。私も腰を伸ばして、胸を張って、健康長寿を目指し、「ナイスイン」の声を響かせながら、グラウンド・ゴルフ人生を謳歌していきたいものだと思います。

本大会の開催にご尽力していただいたすべての関係者の皆様に関心から感謝いたします。特に長崎県すこやか長寿財団の皆様には、細やかで、懇切丁寧な準備から引率まで、大変お世話になりました。また、数年後にお会いできるような腕を磨きます。

こちらでは、毎年10月に「五島列島福江島

グラウンド・ゴルフ交流大会」が開催されます。全国のグラウンド・ゴルフ愛好者の皆様、風光明媚で魚の美味しい長崎県の福江島へ、観光を兼ねていかがでしょうか。心を込めた精一杯のおもてなしを約束します。



チームの仲間と長崎県の幟の前で。
(右から2番目)



ホールインワンを決めて、会心のピースサイン。(右)



ペタンク

熊本なごみ
(監督兼選手)たけした せいいち
竹下 精一さん

75歳

● 参加歴：4回目

最後の正念場で臨んだねりんピック

予選落ちが続いていた私たちにとって悲願のぎふ大会。メンバーはいずれも全国大会出場経験者で、地域のスポーツクラブで練習を重ねています。

出発当日、新幹線に乗車すること5時間、前泊の名古屋入りをし、夕食会場では大好きな生ビール、ひつまぶしをいただき大満足。大会への期待が高まりました。

総合開会式会場の長良川競技場では、高校生の応援団に励まされ、郡上踊りには大勢の選手が飛び入り参加し、圧巻のアトラクションでした。

監督会議では、これまでの試合で顔見知りになった選手たちと再会し、あいさつを交わしました。

会場の養老町は、前日の雨の影響で川砂を敷き詰めたテラン（コート）は湿っていました。

2年前の交通事故で重傷を負ったメンバーの一人は、やっと昨年の春にボールが握れるまでに回復しました。湿ったテランはボールが転がらないので、かなり先にボールを着地できなければ試合運びが難しくなると不安を抱えていました。そこで、ビュット（目標球）が遠くにある時は私が投球し、ビュット権を取ったら近くに投げる、を繰り返し、メンバーが力を出せるよう工夫しました。初戦の青森県は強いチームでいきなり4点を先行されました

が、接戦の末、11対9で初勝利。ほっと一息つくことができました。

2回戦も、テランのコンディションでコントロールが難しかったものの11対0で勝利。3回戦も突破し、翌日の決勝トーナメントに進出が決定しました。

ぎふ大会に出発する前、熊本県ペタンク連盟から対戦相手へのお土産として、くまモンビュットを8試合分、32個預かりました。試合に勝ち続けられれば手土産を渡すことができ、対戦相手との親睦が深められるきっかけになります。あと何チームに配れるかなと思いつつながら、決勝に賭ける意欲が湧いてきました。

順調に勝ち進み、第3位が確定しました。同じ九州のチームだから、と力強い声援をくださる選手の皆さんが見守るなか、迎えた準決勝戦の相手は優勝経験者で強豪の岡山県でした。先取点を取れば勝るとイメージし、一步も引かずチーム一丸となり夢中で対戦しました。4対4の同点からの7メヌ（試合）目、相手チームがポイントを取ったところで、50分の時間切れの合図が鳴り響きました。すべてを出し切りました。

熊本さわやか長寿財団の職員並びに旅行会社の添乗員の皆様には大変お世話になりました。



決勝トーナメントへの出場が決まって笑顔の1枚。(右端)



チーム一丸となって勝ち取った銅メダルを胸に。(右端)



マラソン

10km
(選手)

なかの じゅんこ
中野 順子さん

67歳

●参加歴：2回目

「継続は力なり」次は70歳で挑戦したい！

前回のえひめ大会が2位で終わった時、ぜひぎふ大会に出場したいという強い想いに駆られ、練習を積み重ねてきました。ところが、県予選前に入院を余儀なくされ、走る許可が出たのは予選大会1週間前。不安でいっぱいでしたが、優勝して全国大会出場を手に入れました。

市民ランナーの私は、フルマラソン、ウルトラマラソン、トレイルランなどに挑戦しています。一人では無理だと思う辛い練習も、心強い仲間がいると乗り越えられます。真夏の練習、高地トレーニング、インターバル……と、まるで大人の部活。さまざまな大会で年代別優勝といううれしい結果を残すことができたのも、きつけれど楽しみながら走っているからだと思います。

ぎふ大会出発の前日まで最終調整を行いました。同じ競技に参加する熊本県選手団の方々も、みっちり走り込みをされて大会に臨まれました。さすがです！

年輪を重ねた全国の精鋭たちが結集する、選ばれた選手しか参加できない大会。ワクワクする気持ちと楽しみたい気持ちを膨らませて総合開会式に参加しました。心をつ一つにして成功させたいという想いが感じられる式典でした。

待ちに待った大会当日。どの大会も緊

張します。皆さんが速く見えます。そんな中、えひめ大会で知り合った友だちを見つけ、近況報告をしながらアップし緊張をほぐしました。こうして何年かに一度の再会を懐かしむことができるのもねりんピックの良さですね。

スタートラインに立ち「ゴールを目指すしかない」という気持ちと、体中からみなぎるアドレナリンのおかげで3位でゴール。上位入賞でしたが、タイムに納得できず落ち込んでいるところへ「すごいね!」「元氣もらったよ!」の声。少しずつ気持ちが晴れ、素直に「うれしい。また頑張ろう!」と切り替えができました。

毎年、年齢的に条件が厳しくなりますが、「練習は裏切らない」「練習した分、結果がついてくる」と信じています。座右の銘でもある「継続は力なり」をこれからも実践していきます。

次は、70歳での挑戦。実現できるよう、地道に日々の練習を頑張りたいと思います。そして、このような意義ある大会に多くの人がチャレンジされることを望みます。

好きなマラソンを続けられるのも理解ある家族のおかげ。感謝でいっぱいです。最後になりましたが、岐阜県関係者の方々をはじめ、熊本さわやか長寿財団の皆様には心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。



3位でゴール。
完走証をいただきほっと一息。



出発当日、熊本県選手団メンバーと。(前列右)



テニス

大分べらぼうどんこ隊
(選手)ほり まさ かず
堀 正和さん
77歳
● 参加歴：7回目

ねんりんピック7回出場とこれからの目標

Q ねんりんピックの出場は何回目ですか。

A ぎふ大会で7回目です。初めて参加したのは2009年の北海道・札幌大会で、かなり緊張したのを覚えています。どの大会も、華やかな入場行進と工夫をこらしたアトラクションが魅力的でした。

Q 初出場は60歳ですね。

A 初回は還暦で出場し、今年で喜寿を迎え、77歳になりました。出場年齢枠や怪我などの影響で、今回は3組目のパートナーとの参加でした。これからも同じペアで出場を続けられるといいなあ。

Q これまでの成績は？

A 大分県チームの成績は、前回のとっとり大会では「2位グループでの準優勝」でしたが、ぎふ大会のチーム成績は、同じ2位グループでしたが1回戦で敗退してしまいました。

Q 残念でしたね。敗因は何だと思えますか。

A 一番の理由は、相手がべらぼうに強かったことかな(笑)。1位グループに進出した相手は、堂々優勝の岐阜県Aチームでした。

Q 試合の内容はどうでしたか？

A 初日は、前夜の雨で急きょ室内で試合を行うことになり、大幅短縮で選抜1ペアの一発勝

負。2日目は絶好のテニス日和となり、すべてのコートで皆が躍動しているように見えました。我らはハードコートが初体験で、予想以上に球足が速く、あっさり負けてしまいました。

Q ねんりんピックでの交流エピソードは？

A 2012年の宮城・仙台大会の折に、秋田県と対戦した時のことです。ゲームは大分県が辛勝したんだが、別れ際に秋田県の総監督が「5年後にあきた大会があるから、ぜひリベンジしたい」と言うのです。うちの監督はふたつ返事で「分かった」と。それから5年、約束を果たすためにあきた大会を目指して練習を重ね、これが実現したんだよ。直接対決の機会はなかったけれど、これがきっかけで秋田の観光案内をしてもらい、自宅にまで招いてくれました。それからずっと交流は続いています。

Q ぎふ大会はいかがでしたか。

A 幾度も流れた大会だったし、参加できて非常にうれしかった。天候、足の不調のアクシデントを乗り越え、オンコート、オフコートも満喫できました。「ねんりんピックに8度出場している大分県のレジェンドの二人に、追いつけ追い越せ」が今の私の密かな夢です。



練習交歓で島根県チームと対戦。(後列左から3番目)



再会した岡山県チームと交流。(右端)



ペタンク

大分県
(監督兼選手)いしい とも子さん
77歳
●参加歴：4回目

ペタンクが結んだ全国の仲間との交流

私とペタンクとの出会いは1989年、大分県でねりんピックが開催されるのを機に審判員やスタッフの養成が行われ、当時、体育指導員やレクリエーションの事務局をしていた関係で、その講習会に参加した時でした。大会の決勝戦で初めてペタンクの試合を見て、とても感動したことを覚えています。それ以来、大分県にしかなかったペタンク協会に所属し、試合や講習会に参加してきました。

1997年に竹田市でも協会を立ち上げることになり、レクリエーション協会内で会員を中心に設立しました。会員は少しずつ増え、地元での試合数も増えたことから、大分県ペタンク協

会として独立。九州各県や全国で開催される大会に参加し、ジャパンオープン大会にも参加するようになりました。それを機に日本全国に仲間の輪が広がり、竹田市の大会にも来ていただけるようになりました。互いに研鑽を重ね、良い刺激を受けています。

今年は、5月に愛知県で開催されたジャパンオープン、10月にねりんピックのぎふ大会、11月に大阪で行われた日本ペタンク選手権大会に出場することができました。大阪では3位入賞を果たし、頑張った甲斐があったなあと、これからも体が続く限り挑戦していこうと決意を新たにしました。

ねりんピックは今年で出場4回目ですが、これまでの3回はいずれも他県の選手と同室だったり、食事の際も円卓だったり、落ち着いてゆっくりする間もないまま試合に参加することが多々ありました。予選落ちした時でしたが、開催地からバスで観光地を案内していただいたのは良い思い出になりました。勝ち進んだ大会では観光する暇もなく、近隣を散策することもありました。今回は、帰県時に列車のダイヤが乱れ、運行の遅れから乗り継ぎに間に合わず、ヒヤッとしましたが、これもまた良い経験。今年の大会は充実しており、天国への土産がまた一つできたなあと感謝しております。

今度は東京大会を目指し、頑張ります。



大分県チームの仲間と笑顔の記念撮影。(中央)



ゲートボール

ひゅうが
日向
(選手代表)

くるき ゆたか
黒木 豊さん

74歳

● 参加歴：2回目

全国の仲間と交流する楽しさを伝えたい

ねんりんピック— 30代に目や耳にしたことはあったが、自分には縁がないと思っていた。競技種目もスポーツが主で、運動が生来不得手の自分には大会への参加は遠い存在だった。

ゲートボール— 昭和の終わりから平成にかけて列島で沸騰した高齢者のスポレク。当時、日本中の公園や広場で早朝からにぎわっていた。

この二つがつながって全国大会に出場する機会が巡ってこようとは、「たまるかぁ」と叫びたいくなる喜び(NHK朝ドラから拝借)。

定年退職後、パートナーに引きずられるように始めたゲートボール。そう乗り気でもなかったが、週に2回、車椅子ゲートボールのメンバーと練習を重ねるうちに面白くなっていった。彼らの技量の高さと巧みな試合運びに、負けてたまるかと小さな闘志が湧いたのも一因か。また、屋外で過ごす時間が持てるのも健康に良いと感じていたから。

始めてすぐに市の大会に、3、4年すると県大会へも出場するようになった。でも、その頃にはゲートボールの競技人口は市・県ともに減少し、公園や広場で競技を楽しむ姿を見かけることはほとんどなくなっていた。ゲートボールは流行の言

葉で“オワコン”の一つだった。

そんな中、県大会への出場チーム数は減少し、メンバーの高齢化で私たちにも勝機が訪れ、複数の大会で上位に入るように。自然と、出場可能性のあるねんりんピックが新たな目標になった。

2023年のえひめ大会に、宮崎県の代表として出場が決まった。4泊5日の大会は期待と高揚感でいっぱいであった。運よく予選リーグを突破したが、決勝トーナメントは1回戦敗退。口惜しい全国大会へのデビューだった。

そして今秋2回目のぎふ大会。前回は少しでも上回れるよう闘志を秘めて臨んだが、予選リーグ敗退。辛い結果となった。まだまだ道は険しい。

交流大会は残念な結果だったが、競技会場や夜の交流懇親会は本当に楽しい場であった。全国から集まった選手仲間とのプレゼントの交換、酒を飲みながらのお国自慢は夜遅くまで続いた。こんなに楽しい交流の場をもっともっと多くの人に伝えたいと思う。

趣味は旅行と読書。まだ行ったことのない土地に文庫を持って訪ねるのが楽しみの一つ。コロナ禍以後、籠の鳥状態で隣県以外は遠くなったが、

ねんりんピックがこの小さな楽しみを叶えてくれた。さあ次回はどこを訪ねることになるのだろう。



念願だったねんりんピック2回目の参加。(左から2番目)



夫婦で出場。妻(手前)が真剣な表情で試技に臨む。



ねんりんピックとは

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は60歳以上の方々を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができる健康と福祉の総合的な祭典です。

ねんりんピックは厚生省創立50周年を記念して行われた昭和63年（1988年）の第1回ひょうご大会以来、毎年開催されています。

卓球、テニス、囲碁、俳句などの交流大会や美術展、音楽文化祭、健康福祉機器展などのさまざまなイベントを通じて、地域や世代を超えた参加者の交流の輪が全国に広がっています。

「ねんりんピック岐阜 2025」大会情報

令和7年10月18日から21日の4日間、「清流に輝け ひろがれ 長寿の輪」をテーマにねんりんピック岐阜2025が開催されました。24市町で31種目の交流大会が開かれ、全国から集まった約1万人の選手が日ごろの成果を発揮しました。また、岐阜県独自の「ふれあいレク大会」としてポッチャなどのパラスポーツも含めた25種目の競技も開催されました。

■ 動画配信

ねんりんピックの大会の様態を動画でご覧いただけます。（過去の大会についても動画を配信しております。大会動画配信ページのリンクからぜひご覧ください。）

<https://www.nenrinpic.com/gifu2025>



■ 最高齢者

性別	種目	所属	年齢
男性	グラウンド・ゴルフ	岐阜県	98
女性	ゲートボール	川崎市	92
	グラウンド・ゴルフ	札幌市	92

開催種目・平均年齢

種目	開催市町	参加チーム数	参加者数 (選手・監督)	平均年齢
卓球	中津川市	63	417	71.5
テニス	岐阜市	64	392	67.6
ソフトテニス	瑞穂市・大垣市	58	356	67.9
ソフトボール	揖斐川町	61	880	66.6
ゲートボール	羽島市	80	449	77.5
ペタンク	養老町	63	214	76.5
ゴルフ	関市	58	172	69.5
マラソン	海津市	—	210	69.1
弓道	岐阜市	67	429	70.8
剣道	関市	68	382	67.2
水泳	岐阜市	—	306	71.6
グラウンド・ゴルフ	笠松町	—	388	79.3
ラグビーフットボール	郡上市	31	641	68.0
サッカー	飛騨市	60	1071	64.8
ソフトバレーボール	山県市	70	485	66.2
ウォークラリー	美濃市	38	190	75.1
太極拳	下呂市	53	377	71.2
ダンススポーツ	高山市	53	423	71.4
ディスクゴルフ	御嵩町	—	30	72.0
マレットゴルフ	恵那市	26	101	80.1
インディアカ	各務原市	22	131	67.9
オリエンテーリング	下呂市	26	79	68.7
ターゲット・バードゴルフ	各務原市	25	89	77.0
バウンドテニス	瑞浪市	22	142	70.4
スポーツウエルネス吹矢	池田町	39	115	73.7
パドルテニス	多治見市	13	90	70.1
囲碁	大垣市	51	150	76.8
将棋	美濃加茂市	64	191	71.2
健康マーじゃん	大垣市	70	280	74.8
かるた	可児市	13	50	69.6

※俳句交流大会を除く

ねんりんピックに参加するには

■ 選手として参加する

都道府県・政令指定都市ごとに選手団が結成されます。お住まいの都道府県・政令指定都市選手派遣団体へお問い合わせください。選手派遣団体の一覧は、当センターホームページ（<https://nenrin.or.jp/ikigai/nenrin/about.html>）をご参照ください。

■ イベントに参加する

総合開会式、総合閉会式、講演会、音楽文化祭などのイベントでは事前に入場者募集を行います。また、ふれあい広場をはじめ、どなたでもお楽しみいただけるイベントも数多く開催しますので、大会公式ホームページで情報をご確認の上、ぜひご参加ください。

■ これからの開催地

大会会期	開催地
第38回（令和8年度）	埼玉県
第39回（令和10年度）	東京都

ねんりんピック岐阜2025

参加選手体験談集
ねんりんピックで輝くシニアの星

発行日 2026年3月10日

発行所 一般財団法人 長寿社会開発センター

〒105-8446

東京都港区西新橋3-3-1

KDX西新橋ビル6階

Tel. 03-5470-6753

<https://nenrin.or.jp/>

※無断転載・複製を禁じます。



岐阜県マスコットキャラクター ミナモ



一般財団法人 **長寿社会開発センター**